

令和3年度事業報告書

第 1 5 期事業年度

自 令和3年4月 1日
至 令和4年3月31日

目

次

1 法人の概要			
(1) 名称	P- 1		
(2) 所在地	P- 1		
(3) 法人設立の年月日	P- 1		
(4) 設立団体	P- 1		
(5) 中期目標の期間	P- 1		
(6) 目的及び業務	P- 1		
(7) 資本金の額	P- 1		
(8) 代表者の役職氏名	P- 1		
(9) 役員及び教職員の数	P- 1		
(10) 組織図	P- 2		
(11) 法人が設置運営する大学の概要	P- 3		
2 令和3年度に係る業務の実績に関する自己評価結果			
(1) 大項目ごとの評定	P- 4		
(2) 総合的な評定	P- 4		
(3) 対処すべき課題	P- 5		
3 中期計画の各項目ごとの実施状況			
第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置			
1 教育に関する目標を達成するためとるべき措置			
(1) 教育内容の充実に関する目標を達成するためとるべき措置	P- 6		
(2) 教育方法等の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	P-13		
2 学生の確保に関する目標を達成するためとるべき措置	P-15		
3 学生の支援に関する目標を達成するためとるべき措置			
(1) 学習支援の充実に関する目標を達成するためとるべき措置	P-17		
(2) 生活支援の充実に関する目標を達成するためとるべき措置	P-19		
(3) 就職支援の充実に関する目標を達成するためとるべき措置	P-21		
4 研究に関する目標を達成するためとるべき措置			
(1) 研究の充実に関する目標を達成するためとるべき措置	P-24		
(2) 多様な研究活動の展開に関する目標を達成するためとるべき措置	P-26		
(3) 研究成果の還元に関する目標を達成するためとるべき措置	P-28		
5 地域貢献に関する目標を達成するためとるべき措置			
(1) 地域連携教育の充実に関する目標を達成するためとるべき措置	P-29		
(2) 地域貢献活動の充実に関する目標を達成するためとるべき措置	P-31		
6 グローバル化に関する目標を達成するためとるべき措置	P-32		
第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置			
1 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置			
(1) 機動的かつ効率的な運営体制の構築に関する目標を達成するためとるべき措置	P-34		
(2) 地域に開かれた大学づくりの推進に関する目標を達成するためとるべき措置	P-36		
2 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置			
(1) 自己収入の増加に関する目標を達成するためとるべき措置	P-38		
(2) 運営経費の見直しに関する目標を達成するためとるべき措置	P-40		
3 自己点検及び評価に関する目標を達成するためとるべき措置			
(1) 評価の充実に関する目標を達成するためとるべき措置	P-41		
(2) 情報公開の推進に関する目標を達成するためとるべき措置	P-43		
4 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置			
(1) 施設及び設備の適切な維持管理に関する目標を達成するためとるべき措置	P-44		
(2) 安全・安心な教育研究環境の確保に関する目標を達成するためとるべき措置	P-45		
第4 財務情報（主要データの推移）			P-47
第5 令和3年度財務諸表の要約			P-50
第6 予算、収支計画及び資金計画			P-52
第7 短期借入金の限度額			P-54
第8 剰余金の使途			P-54
第9 重要な財産の譲渡等に関する計画			P-54
第10 その他規則で定める事項			P-55

1 法人の概要

(令和3年5月1日現在)

- (1) 名称
公立大学法人岡山県立大学
- (2) 所在地
岡山県総社市窪木111番地
- (3) 法人設立の年月日
平成19年4月1日
- (4) 設立団体
岡山県
- (5) 中期目標の期間
平成31年4月1日から令和7年3月31日
- (6) 目的及び業務
 - ア 目的
公立大学法人岡山県立大学は、人間を取り囲むさまざまな環境の中で調和のとれた発展を期し、地域の課題や社会の要請に的確に応えるため、「人間・社会・自然の関係性を重視する実学を創造し、地域に貢献する」ことを基本理念とする。
この理念に基づいて、学術の進展と教育の振興を図り、福祉の増進、文化の向上、地域産業の発展等に寄与する研究活動に取り組むとともに、知性と感性を育み、豊かな教養と深い専門性を備えて新しい時代を切り拓く知識と高度な技術を身につけた実践力のある人材を育成する。
 - イ 業務
 - ア 岡山県立大学を設置し、これを運営すること。
 - イ すべての学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談など学生生活に関する相談その他の援助を行うこと。
 - ウ 民間企業や試験研究機関等との間の共同研究や受託研究、技術指導等を実施するなど、法人以外の者と連携して教育研究活動の推進に取り組むこと。
 - エ 地域社会に貢献するため、公開講座を開設する等、地域住民に幅広く学習機会を提供するとともに、大学における研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。
 - オ 前各号に掲げる業務を効果的かつ効率的に実施するため、附帯して必要となる関連業務を行うこと。
- (7) 資本金の額 120億 9,163万 2,943円
- (8) 代表者の役職氏名
理事長 沖 陽子
- (9) 役員及び教職員の数
 - ア 役員

理事長	1人
副理事長	1人
理事	3人
監事	2人
役員計	7人
 - イ 教職員

学長	1人
教員	154人 (特任教員を含む専任教員数。)
職員	59人
教職員計	214人

(10) 組織図

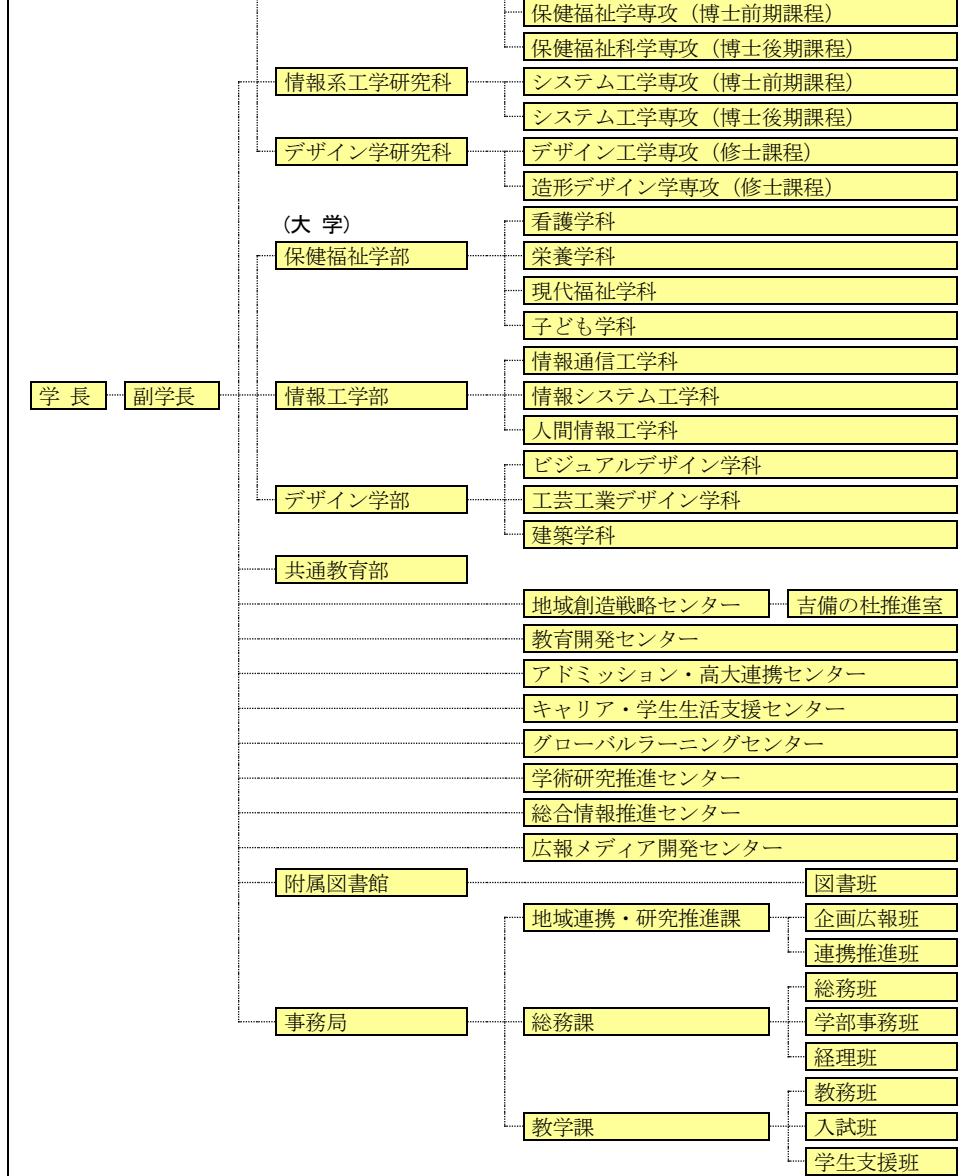
【法人組織】

役員会		
理事長	沖 陽子	岡山県立大学学長
副理事長	善勝 剛志	岡山県立大学事務局長
理事	松田 正己	(株)山陽新聞社代表取締役社長
理事	高橋 吉孝	岡山県立大学副学長 (教育担当)
理事	末岡 浩治	岡山県立大学副学長 (社会連携担当)
監事	井上 信二	公認会計士
監事	大土 弘	弁護士

経営審議会		
議長	沖 陽子	公立大学法人岡山県立大学理事長
委員	善勝 剛志	公立大学法人岡山県立大学副理事長
委員	末岡 浩治	公立大学法人岡山県立大学理事 (社会連携担当)
委員	晝田 眞三	ヒルタ工業 (株) 代表取締役会長
委員	中島 義雄	(株) システムズナカシマ代表取締役社長
委員	梶谷 俊介	岡山トヨタ自動車(株)代表取締役社長
委員	則武 直美	岡山聖園子供の家施設長

教育研究審議会		
議長	沖 陽子	公立大学法人岡山県立大学理事長
委員	善勝 剛志	公立大学法人岡山県立大学副理事長
委員	高橋 吉孝	公立大学法人岡山県立大学理事 (教育・学術研究担当)
委員	末岡 浩治	公立大学法人岡山県立大学理事 (社会連携・国際担当)
委員	伊東 秀之	岡山県立大学副学長 (入試・広報担当)
委員	近藤 理恵	岡山県立大学保健福祉学部長
委員	尾崎 公一	岡山県立大学情報工学部長
委員	嘉数 彰彦	岡山県立大学デザイン学部長
委員	田中 晃一	岡山県立大学共通教育部長
委員	山下 広美	岡山県立大学附属図書館長
委員	難波 久美子	岡山県立大学デザイン学部教授
委員	大崎 紘一	岡山商科大学特別顧問
委員	平野 博之	岡山理科大学副学長

【大学組織】



(11) 法人が設置運営する大学の概要

大学の名称	岡山県立大学				
大学本部の位置	岡山県総社市窪木1 1 1 番地				
学長の氏名	沖 陽子 (公立大学法人岡山県立大学理事長)				
学部等の名称	修業 年限	入学 定員	収容 定員	開設年度	備 考
保健福祉学部	年	人	人		
看護学科	4	40	160	平成5年4月	
栄養学科	4	40	160	平成5年4月	
現代福祉学科	4	35	140	令和3年4月	学科再編
子ども学科	4	25	100	令和3年4月	〃
情報工学部					
情報通信工学科	4	50	200	平成5年4月	
情報システム工学科	4	50	200	平成5年4月	
人間情報工学科	4	40	160	平成27年4月	名称変更
デザイン学部					
ビジュアルデザイン学科	4	30	120	令和3年4月	学科再編
工芸工業デザイン学科	4	30	120	令和3年4月	〃
建築学科	4	30	120	令和3年4月	〃
保健福祉学研究所 (博士前期課程)					
看護学専攻	2	7	14	平成9年4月	
栄養学専攻	2	6	12	平成9年4月	
保健福祉学専攻 (博士後期課程)	2	7	14	平成9年4月	
保健福祉科学専攻	3	5	15	平成15年4月	定員変更
情報系工学研究所 (博士前期課程)					
システム工学専攻 (博士後期課程)	2	52	104	平成25年4月	専攻再編
システム工学専攻	3	6	18	平成11年4月	
デザイン学研究所 (修士課程)					
デザイン工学専攻	2	7	14	平成22年4月	専攻再編
造形デザイン学専攻	2	9	18	平成22年4月	〃
附属施設等	附属図書館 共通教育部				
学生数	1, 791人				
教員数	154人 (特任教員を含む専任教員数。)				
職員数	59人				

【大学の沿革】

平成 5年 4月	開学 (保健福祉学部・情報工学部・デザイン学部、短期大学部)
9年 4月	大学院 保健福祉学研究所 (修士課程)、情報系工学研究所 (修士課程) 設置
10年 4月	大学院 デザイン学研究所 (修士課程) 設置
11年 4月	大学院情報系工学研究所 (博士後期課程) 開設
12年 6月	共同研究機構設置
14年 4月	保健福祉支援センター設置 メディアコミュニケーション支援センター設置
15年 4月	大学院保健福祉学研究所 (博士後期課程) 設置
15年 6月	サテライトキャンパス設置 (平成18年7月廃止)
17年 8月	全学教育研究機構設置
17年10月	地域共同研究機構設置 (令和2年3月廃止) 共同研究機構を産学官連携推進センターに名称変更 (令和2年3月廃止) 保健福祉支援センターを保健福祉推進センターに名称変更 (平成29年3月廃止) メディアコミュニケーション支援センターをメディアコミュニケーション推進センターに名称変更 (平成24年3月廃止)
18年 4月	情報工学部 スポーツシステム工学科設置 デザイン学部 学科再編 (デザイン工学科・造形デザイン学科設置)
19年 3月	短期大学部閉学
19年 4月	公立大学法人岡山県立大学設立 保健福祉学部 保健福祉学科改組
20年 4月	健康・スポーツ推進センター設置 (平成27年3月廃止)
22年 4月	大学院 情報系工学研究所人間情報システム工学専攻 (博士前期課程) 設置 大学院 デザイン学研究所 (修士課程) 再編 (デザイン工学専攻、造形デザイン学専攻設置)
23年 4月	認定看護師教育センター設置 (平成28年3月廃止)
24年 4月	福祉・健康まちづくり推進センター設置 (平成27年3月廃止)
25年 4月	保健福祉学部 保健福祉学科再編 (社会福祉学専攻、子ども学専攻設置) 大学院 保健福祉学研究所 (博士前期課程) 看護学専攻再編 (保健師国家試験受験資格取得) 大学院 情報系工学研究所 (博士前期課程) 再編 (システム工学専攻設置)
26年10月	大学教育開発センター設置 国際交流センター設置

27年 4月	情報工学部 スポーツシステム工学科を人間情報工学科に名称変更 全学教育研究機構を共通教育部に名称変更 教育研究開発機構設置（平成31年3月廃止） 総合情報機構設置（平成31年3月廃止） 情報基盤活用推進センター設置 広報メディア開発センター設置 地域連携推進センター設置（令和2年3月廃止）
27年10月	学術研究推進センター設置
28年 4月	副専攻「岡山創生学」設置 COC+推進室設置
28年12月	学生支援室（SAS）開設
31年 4月	キャリア・学生生活支援センター設置 大学教育開発センターを教育開発センターに名称変更 情報基盤活用推進センターを総合情報推進センターに名称変更
令和 2年 4月	地域創造戦略センター設置 アドミッション・高大連携センター設置 国際交流センターをグローバルラーニングセンターに名称変更
令和 3年 4月	保健福祉学部 学科再編（現代福祉学科・子ども学科設置） デザイン学部 学科再編（ビジュアルデザイン学科・工芸工業デザイン学科・建築学科設置） 副専攻「岡山創生学」を「岡山創生学課程」に名称変更 副専攻「吉備の杜クリエイター課程」設置 副専攻「吉備の杜プロデューサー課程」設置 地域創造戦略センター吉備の杜推進室設置

2 令和3年度に係る業務の実績に関する自己評価結果

(1) 大項目ごとの評定

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する事項

評定	中期計画の進捗は優れて順調
----	---------------

大項目第2「大学の教育研究等の質の向上」では、評点4「十分に達成」が10項目（30.3%）、評点3「概ね達成」が19項目（57.6%）、評点2「やや未達成」が4項目（12.1%）であり、当該大項目に係る最小項目別評価の評点の平均値は3.2となるため、大項目別評価は⑤「中期計画の進捗は優れて順調」とした。

第3 業務運営の改善及び効率化等に関する事項

評定	中期計画の進捗は順調
----	------------

大項目第3「業務運営の改善及び効率化等」では、評点4「十分に達成」が2項目（10.5%）、評点3「概ね達成」が15項目（79%）、評点2「やや未達成」が2項目（10.5%）であり、当該大項目に係る最小項目別評価の評点の平均値は3.0となるため、大項目別評価は④「中期計画の進捗は順調」とした。

(2) 総合的な評定

評定	中期計画の進捗は順調
----	------------

大項目別評価の結果を踏まえ、中期計画の進捗状況全体について総合的に判断し、令和3年度の業務に対する自己評価は「中期計画の進捗は順調」とした。

令和3年度は、令和2年度に模索したコロナ禍での活動の経験を生かし、より社会情勢に対応しながら中期計画を遂行することができた。企業との共同研究等、一部の事業では引き続きコロナ禍の大きな影響を受けているものの、副専攻「吉備の杜」による地域連携の活性化や、県内就職率の向上等、多くの点で令和2年度を上回る進捗となった。

(3) 対処すべき課題

令和3年度業務実績に関する自己評価は第3期中期計画が実施されてから3年目にあたる。初年度である令和元年度は、「やや未達成（評価2）」の項目がかなり散見された。従って、令和2年度においては、対処すべき項目に注力して改善を期した。その結果、令和2年度はコロナ禍の影響が大きく、従前通りの業務実績の自己評価は難しい状況ではあったが、総合的には令和元年度よりやや高い評価結果となった。令和3年度も引き続きコロナ禍で業務は制約されることが多かったが、対

処すべき課題に対して改善に努力したところ、令和3年度は総じて改善効果が認められた。しかしながら、令和元年度よりいまだ改善できていない項目もあり、以下に令和4年度に向けて、改善された項目も含めて対応が望まれる対処すべき課題について記す。

① 教育

学士教育（地域連携教育）については、副専攻「吉備の杜」を充実させながら、コロナ禍で制約があったにも拘わらず、地域創生推進士を34名認定した。さらに、課題であった成果指標の県内就職率は、53.9%（地域創生推進士：71.4%）と上昇して目標を達成した。しかしながら、今後もコロナ禍を始め就職活動を取り巻く社会の動きが変化すると予測されるので、引き続き令和4年度目標値の54%に向けて努力する。

大学院教育の充実は今まで大きな課題として残されている。デザイン学研究科の定員充足率並びに進路決定率は依然低調であり、さらに「情報系研究科」も低下する傾向にあることは大きな問題である。令和3年度から大学院教育改革を含めた「吉備の杜」創造戦略プロジェクトを走らせているが、魅力のある大学院教育への改善を急務とし、学部生へ強く発信する。

インターンシップの充実に関しては、コロナ禍の影響がある中で、「地域インターンシップ」は33人、「エンジニアリング演習」は25人、合計58名の参加者数となり、目標値を達成した。これは、受入企業との調整や教育内容の充実に向けた結果である。今後、就職活動においてインターンシップの位置づけは大きくなるので、さらなる充実に努める。

② 学生の確保

「アドミッション・高大連携センター」が中心となり、高校生に向けた入試情報の発信を積極的に実施し、また学生広報委員を発足させ、各種イベント等を学生目線で実施することにより、全学では志願倍率は大きな減少は生じなかった。しかしながら、一般選抜において、入試システム上の重大なミス、外部からの指摘で判明するなど、入試ミスの防止体制が不十分であった。今後、このようなミスが生じないよう猛省して、入念なチェック体制の構築を行う。

③ 学生支援

成果指標である「県内就職率」並びに「長期インターンシップ参加者数」の不調から、過去2年間は評価が低調であったが、令和3年度は前掲の通り、コロナ禍の影響を受けながらもキャリア形成支援を充実させて目標値を達成した。この数値を維持するために、今後も継続的な努力を行う。

コロナ禍におけるきめ細やかなメンタルサポート体制を、学生対応マニュアルの作成等により進めた。しかし、実態は退学・休学者数は減少しておらず、修業年限内卒業率も必ずしも良い数値ではない。詳細な実態解析を実施して体制づくりの効果が発揮されるよう努力する。

④ 研究

昨年度は評価が高かった公募型研究助成事業の採択数並びに科学研究費補助金採択率が、本年度は激減した。一般に、科学研究費補助金採択率は隔年ごとの

年次変動が大きい傾向にあるが、本学では令和元年度より減少傾向にある。また、共同研究費の獲得は常に低調である。研究に対する姿勢を根本的に考え直すことが急務である。

⑤ 地域貢献

副専攻「吉備の杜」の充実並びに「コミュニティキャンパスおかやま」の活動により、コロナ禍においても十分評価に値する実績となった。今までは成果指標の県内就職率が低調であったが本年度は目標値に達した（1. 教育 4 学士教育（地域連携教育）再掲）。しかしながら、副専攻の目的意識や実施内容に関しては、学外からの評価は高いが、学内における教員と学生の理解が十分であるとは思われないので、今後の対策を検討する。

⑥ グローバル化

TOEIC 平均点の1年次から2年次の伸び幅は、昨年度と同様に大幅に上昇し、昨年度は課題であったTOEIC 上位得点者における伸び幅も本年度は大きく上昇して、英語力の伸長が認められた。

コロナ禍の影響により、現地での海外研修は出来なかったが、オンラインによる環境が整備され、ウェビナー、海外インターンシップ、海外シンポジウム、英会話等が実施できた。ポストコロナ期を見据えて、今後、質の向上に努める。また、留学生の受入れや日本学生支援機構による留学支援制度の活用も積極的に進める。

⑦ 業務運営

学内ネットワークの更新事業が完了できずに、情報発信・共有ルールの見直しが出来なかったことは痛手であった。今後、早急な立て直しを実施する。

「地域に開かれた大学づくりの推進」については、学生や地元企業との協働でキャンパスソング及びクッキーが完成した。今後もさらなる取り組みに努める。

⑧ 財務

科研費獲得額は成果指標の目標を上回ったが、今後も努力を継続する。一方、共同研究等の獲得は、コロナ禍の影響もあり件数、獲得額共に本年度も目標を達成できなかった。早急に改善する工夫が必要である（4. 研究 26 共同研究等の推進 再掲）。

⑨ 自己点検及び評価

令和5年度の認証評価の受審に向けた内部質保証の体制を整備し、内部質保証に向けてポストコロナ期を考慮しながら準備を進めている。特に、全学及び部局におけるPDCAサイクルの強化と連携を考慮している。教員の個人評価制度についても改善に努める。

3 中期計画の各項目ごとの実施状況

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 教育に関する目標達成するためとるべき措置

(1) 教育内容の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

ア 学士教育

中期計画	年度計画	実績状況																																			
<p>[1]</p> <p>・保健福祉学部</p> <p>保健福祉学部では、地域社会や国際社会における人々の健康維持と増進に積極的に貢献できる看護、栄養、福祉、教育に関する幅広い知識と技術を修得し、専門分野に関する課題を科学的、論理的思考や分析に基づいて主体的に解決する能力を備えた人材を育成する教育を充実させる。</p> <p>特に、子ども学の分野では、子どもを取り巻く複雑化する環境を理解し、福祉の視点を有する高度な就学前教育と小学校教育への円滑な接続を推進できる人材育成を目指す。</p> <p>成果指標</p> <p>・国家試験の合格率(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>試験名</th> <th>現状(H25～29年度平均)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>98.1</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>助産師</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>管理栄養士</td> <td>95.5</td> <td>96.0</td> </tr> <tr> <td>社会福祉士</td> <td>79.6</td> <td>80.0</td> </tr> </tbody> </table>	試験名	現状(H25～29年度平均)	目標	看護師	98.1	100	助産師	100	100	管理栄養士	95.5	96.0	社会福祉士	79.6	80.0	<p>[1]</p> <p>・保健福祉学部</p> <p>国家試験の合格率目標の実現に向けた指導の充実と内容の改善を進める。また、「吉備の杜」創造戦略プロジェクトの授業科目の内容を充実させるとともに地域包括支援活動を進めるための準備を行う。さらに、海外研修について社会情勢に柔軟に対応した実施方法の改善を図る。</p> <p>成果指標</p> <p>・国家試験の合格率(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>試験名</th> <th>R3目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>助産師</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>管理栄養士</td> <td>96.0</td> </tr> <tr> <td>社会福祉士</td> <td>80.0</td> </tr> </tbody> </table>	試験名	R3目標	看護師	100	助産師	100	管理栄養士	96.0	社会福祉士	80.0	<p>[1]</p> <p>・保健福祉学部</p> <p>各学科においてカリキュラムを通して国家試験の合格率向上に向けた対策を進め、社会福祉士に関しては、対策講座を新設した。地域包括支援に関する教育内容を取り入れた看護学科の新カリキュラムを導入した。海外研修の代替として、オンラインによる海外学術交流会を開催するなど、コロナ禍においてもグローバル教育の充実に努めた。</p> <p>成果指標</p> <p>・国家試験の合格率(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>試験名</th> <th>R3実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>助産師</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>管理栄養士</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>社会福祉士</td> <td>76.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>[評価時の観点]</p> <p>継続的な国家試験の合格率向上に向けた対策により、看護師、助産師、管理栄養士の3つが合格率の目標値に到達し、地域連携やグローバル教育に関する取り組みも進めている。</p>	試験名	R3実績	看護師	100	助産師	100	管理栄養士	100	社会福祉士	76.3
試験名	現状(H25～29年度平均)	目標																																			
看護師	98.1	100																																			
助産師	100	100																																			
管理栄養士	95.5	96.0																																			
社会福祉士	79.6	80.0																																			
試験名	R3目標																																				
看護師	100																																				
助産師	100																																				
管理栄養士	96.0																																				
社会福祉士	80.0																																				
試験名	R3実績																																				
看護師	100																																				
助産師	100																																				
管理栄養士	100																																				
社会福祉士	76.3																																				

中期計画	年度計画	実績状況
<p>[2] ・情報工学部</p> <p>情報工学部では、第4次産業革命の中核をなす情報工学に加え、電子通信工学、機械システム工学、人間工学に関する幅広い知識を活用し、人間・社会・自然との調和を図りながら超スマート社会及び地域産業の持続的発展に貢献できる未来志向の技術者を育成する教育を充実させる。</p>	<p>[2] ・情報工学部</p> <p>成長分野を支える情報技術人材の育成のため、「吉備の杜」創造戦略プロジェクトの授業科目を効果的に活用しつつ、全国の大学、岡山県立大学協会のシステムエンジニアリング岡山等との連携を密にし、インターンシップ参加を促進するとともに、社会人基礎力の育成に努める。</p>	<p>[2] ・情報工学部</p> <p>副専攻「吉備の杜」の「ICT技術を温め羅ねる杜」の6科目を開講し、学生の履修を促すとともに、「未来型プロジェクト<ICT>」について、希望調査をふまえて演習先の調整を行うなど、開講の準備を進めた。</p> <p>岡山県立大学協会の業種説明会とシステムエンジニアリング岡山の企業説明会、卒業生等による企業説明会を開催し、県内企業の情報提供や学生の進路選択の支援を充実させた。</p> <p>[評価時の観点] コロナ禍においても、就職率100%、進学率44%と、共に目標値を達成した。また、授業形態を問わず高いアクティブ・ラーニング導入率(96.9%)を達成した。</p>
<p>[3] ・デザイン学部</p> <p>デザイン学部では、人間・社会・自然との調和を目指したデザイン・建築を創造できる人材教育を目指し、学部の基礎的な共通教育に加えて、実学教育を中核とした各分野の専門教育により、地域社会や国際社会の持続的発展に貢献できるスペシャリストを育成する教育を充実させる。</p> <p>特に、建築分野においては、インテリアから建築設計を中心に、地域計画に至るまで、建築に関わる幅広い知識と高度な技能を修得し、建築家や建築分野の専門家の育成を目指す。</p>	<p>[3] ・デザイン学部</p> <p>新設した学科の新カリキュラムへの移行と「吉備の杜」創造戦略プロジェクトの授業科目の開講を円滑に実施するとともに、令和4年に新規開講する授業科目の準備や施設の整備を計画的に進める。また、アドミッション・ポリシーで求める人材の確保に繋がっているか入学試験の結果を分析し、効果的な入試広報を実施する。</p>	<p>[3] ・デザイン学部</p> <p>学科改編に伴う新カリキュラムへの移行を円滑に行うため、必要な教室、設備を整備した。</p> <p>副専攻「吉備の杜」の科目を開講し、副専攻「吉備の杜」について、各学生の専門分野と関連した科目の履修を促し、教育効果の向上を図った。</p> <p>令和2年度の入試結果の分析からミスマッチを防ぐことを考慮した学科リーフレットを3学科ともに作成し、県内高等学校への配布を行った。</p>

中期計画	年度計画	実績状況																																																												
<p>(参考指標) ([1]~[3])</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修業年限内卒業率 ・卒業時及び卒業生に対する調査による教育満足・充実度等 ・卒業生の就職率(%) <table border="1" data-bbox="369 363 813 587"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>現状(H29年度卒)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健福祉学部</td> <td>97.7</td> <td>99.0</td> </tr> <tr> <td>情報工学部</td> <td>96.9</td> <td>98.0</td> </tr> <tr> <td>デザイン学部</td> <td>88.1</td> <td>90.0</td> </tr> <tr> <td>学部計</td> <td>95.3</td> <td>97.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※就職率=就職者数/就職希望者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の進学率(%) <table border="1" data-bbox="369 651 813 874"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>現状(H29年度卒)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健福祉学部</td> <td>6.3</td> <td>8.0</td> </tr> <tr> <td>情報工学部</td> <td>30.8</td> <td>32.0</td> </tr> <tr> <td>デザイン学部</td> <td>3.9</td> <td>5.0</td> </tr> <tr> <td>学部計</td> <td>15.5</td> <td>17.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※進学率=進学者数/卒業生数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)の検証に基づくカリキュラム及び実施方法の見直し状況 	学部名	現状(H29年度卒)	目標	保健福祉学部	97.7	99.0	情報工学部	96.9	98.0	デザイン学部	88.1	90.0	学部計	95.3	97.0	学部名	現状(H29年度卒)	目標	保健福祉学部	6.3	8.0	情報工学部	30.8	32.0	デザイン学部	3.9	5.0	学部計	15.5	17.0		<p>(参考指標) ([1]~[3])</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修業年限内卒業率(%) <table border="1" data-bbox="1366 268 1809 464"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>R3実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健福祉学部</td> <td>95.3</td> </tr> <tr> <td>情報工学部</td> <td>88.6</td> </tr> <tr> <td>デザイン学部</td> <td>88.2</td> </tr> <tr> <td>学部計</td> <td>91.0</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の就職率(%) <table border="1" data-bbox="1366 496 1809 692"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>R3実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健福祉学部</td> <td>99.3</td> </tr> <tr> <td>情報工学部</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>デザイン学部</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>学部計</td> <td>99.6</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の進学率(%) <table border="1" data-bbox="1366 724 1809 920"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>R3実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健福祉学部</td> <td>5.6</td> </tr> <tr> <td>情報工学部</td> <td>44.0</td> </tr> <tr> <td>デザイン学部</td> <td>13.8</td> </tr> <tr> <td>学部計</td> <td>22.7</td> </tr> </tbody> </table>	学部名	R3実績	保健福祉学部	95.3	情報工学部	88.6	デザイン学部	88.2	学部計	91.0	学部名	R3実績	保健福祉学部	99.3	情報工学部	100	デザイン学部	100	学部計	99.6	学部名	R3実績	保健福祉学部	5.6	情報工学部	44.0	デザイン学部	13.8	学部計	22.7
学部名	現状(H29年度卒)	目標																																																												
保健福祉学部	97.7	99.0																																																												
情報工学部	96.9	98.0																																																												
デザイン学部	88.1	90.0																																																												
学部計	95.3	97.0																																																												
学部名	現状(H29年度卒)	目標																																																												
保健福祉学部	6.3	8.0																																																												
情報工学部	30.8	32.0																																																												
デザイン学部	3.9	5.0																																																												
学部計	15.5	17.0																																																												
学部名	R3実績																																																													
保健福祉学部	95.3																																																													
情報工学部	88.6																																																													
デザイン学部	88.2																																																													
学部計	91.0																																																													
学部名	R3実績																																																													
保健福祉学部	99.3																																																													
情報工学部	100																																																													
デザイン学部	100																																																													
学部計	99.6																																																													
学部名	R3実績																																																													
保健福祉学部	5.6																																																													
情報工学部	44.0																																																													
デザイン学部	13.8																																																													
学部計	22.7																																																													
<p>[4]</p> <p>地域に愛着を持ち、その発展に寄与する意欲・能力を育むため、COC+の一環として設置した副専攻「岡山創生学」の成果を継承し、さらなる地域連携教育の充実・改善を図る。</p>	<p>[4]</p> <p>学部副専攻を「岡山創生学課程」と「吉備の杜クリエイター課程」の2つで構成することに伴い、相互で密に連携しながら、充実・改善した副専攻科目の実施と検証を継続する。また、新型コロナウイルス等の社会情勢に柔軟に対応した実施方法の改善を図る。</p>	<p>[4]</p> <p>副専攻「吉備の杜」は、感染予防対策を施し、オンラインと対面の使い分けや併用をしながら開講した。</p> <p>演習科目について担当者間で省察を行い、次年度以降の改善に向けた検討を行った。</p> <p>地域創生推進士の認定要件の説明会を開くなど、認定者の確保に向けた広報を行った。</p> <p>地域創生推進士は34名を認定した。</p>																																																												

中期計画	年度計画	実績状況																																																
<p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合(%) <table border="1" data-bbox="371 296 824 403"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H29年度卒)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>51.8</td> <td>55.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域連携教育の実施状況(地域の学外関係者による講座数を含む。) 	項目	現状(H29年度卒)	目標	全学部平均	51.8	55.0	<p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合(%) <table border="1" data-bbox="869 296 1299 376"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R3目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>53.5</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R3目標	全学部平均	53.5	<p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合(%) <table border="1" data-bbox="1373 296 1803 376"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R3実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>53.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考) 地域創生推進士の県内就職率：71.4%</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域連携教育の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> 副専攻科目の単位修得者数(人) <table border="1" data-bbox="1384 541 1877 1182"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>社会連携要論</td><td>333</td></tr> <tr><td>地域創生演習</td><td>104</td></tr> <tr><td>地域資源論</td><td>356</td></tr> <tr><td>地域創生実践論</td><td>60</td></tr> <tr><td>地域インターンシップ</td><td>33</td></tr> <tr><td>エンジニアリング演習</td><td>25</td></tr> <tr><td>フードビジネス学</td><td>30</td></tr> <tr><td>チームガバナビリティ演習</td><td>34</td></tr> <tr><td>地域保健福祉演習</td><td>15</td></tr> <tr><td>組込みシステム</td><td>115</td></tr> <tr><td>技術者と社会</td><td>21</td></tr> <tr><td>セキュリティ総論</td><td>78</td></tr> <tr><td>知的制御システム</td><td>59</td></tr> <tr><td>森林生態学・地盤工学</td><td>18</td></tr> <tr><td>森林・木材学演習</td><td>19</td></tr> <tr><td>木構造学・木構造デザイン</td><td>17</td></tr> </tbody> </table> <p>[評価時の観点]</p> <p>副専攻「吉備の杜」による地域連携教育を充実させるとともに、令和3年度卒業生の県内就職率が53.9%と上昇し、目標を達成した。</p>	項目	R3実績	全学部平均	53.9	科目名	人数	社会連携要論	333	地域創生演習	104	地域資源論	356	地域創生実践論	60	地域インターンシップ	33	エンジニアリング演習	25	フードビジネス学	30	チームガバナビリティ演習	34	地域保健福祉演習	15	組込みシステム	115	技術者と社会	21	セキュリティ総論	78	知的制御システム	59	森林生態学・地盤工学	18	森林・木材学演習	19	木構造学・木構造デザイン	17
項目	現状(H29年度卒)	目標																																																
全学部平均	51.8	55.0																																																
項目	R3目標																																																	
全学部平均	53.5																																																	
項目	R3実績																																																	
全学部平均	53.9																																																	
科目名	人数																																																	
社会連携要論	333																																																	
地域創生演習	104																																																	
地域資源論	356																																																	
地域創生実践論	60																																																	
地域インターンシップ	33																																																	
エンジニアリング演習	25																																																	
フードビジネス学	30																																																	
チームガバナビリティ演習	34																																																	
地域保健福祉演習	15																																																	
組込みシステム	115																																																	
技術者と社会	21																																																	
セキュリティ総論	78																																																	
知的制御システム	59																																																	
森林生態学・地盤工学	18																																																	
森林・木材学演習	19																																																	
木構造学・木構造デザイン	17																																																	

中期計画	年度計画	実績状況
<p>[5] 地域社会及びその延長上の国際社会のニーズに即した人材を適切かつ効果的に育成するとともに、教育研究面での本学の特色を伸長させるため、教育研究組織の見直しについて検討する。</p>	<p>[5] 設定した3ポリシーについて、その実現レベルを検証するとともに、課題の発見と解決を図る。</p>	<p>[5] 学部と大学院のアドミッション・ポリシーに沿った入試問題となっているか確認する体制を構築し、令和4年度以降の入学者のアドミッション・ポリシー達成度を主観的に調査する入学時アンケートを策定した。 学部と大学院のカリキュラムマップの点検を行い、カリキュラム・ポリシーとシラバスに反映した。 令和3年度の卒業時・修了時アンケートで、ディプロマ・ポリシーが概ね達成できていることを確認した。 コロナ禍の学修成果については、教員へのアンケートと成績分布の分析を行い、概ねコロナ前の状況が維持されていることを確認し、授業実施形態とともに公表した。</p>

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 教育に関する目標達成するためとるべき措置

(1) 教育内容の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

イ 大学院教育

中期計画	年度計画	実績状況														
<p>[6] ・保健福祉学研究科 保健福祉学研究科では、保健・医療・福祉分野における問題点を提起してそれを解決し得る高度な研究能力を持つとともに、専門職としての知識・技術を身に付けることにより、少子・超高齢化とグローバル化の進む地域社会において、健康、福祉に関する高度な課題の解決に貢献できる人材を育成する教育を充実させる。</p> <p>成果指標 ・国家試験の合格率(%)</p> <table border="1" data-bbox="371 852 806 932"> <thead> <tr> <th>試験名</th> <th>現状(H29年度)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健師</td> <td>87.5</td> <td>90.0</td> </tr> </tbody> </table>	試験名	現状(H29年度)	目標	保健師	87.5	90.0	<p>[6] ・保健福祉学研究科 「吉備の杜」創造戦略プロジェクトの新設演習科目において、実践能力及びマネジメント力を身に付けるための内容充実を図るとともに、保健師国家試験の合格率目標の実現に向けた指導の充実及びグローバル化社会に対応できる人材育成に向けた海外研修の内容充実を進める。</p> <p>成果指標 ・国家試験の合格率(%)</p> <table border="1" data-bbox="866 820 1305 900"> <thead> <tr> <th>試験名</th> <th>R3目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健師</td> <td>90.0</td> </tr> </tbody> </table>	試験名	R3目標	保健師	90.0	<p>[6] ・保健福祉学研究科 カリキュラムを通して保健師国家試験に向けた対策講義を実施し、合格率100%と目標を達成した。 修了者の進路決定率の確保のため、就職に向けた英語教育、エントリーシートや面接の対策等、希望職種別に個別指導を実践した。 韓国ウソン大学とのオンライン学術交流、副専攻「吉備の杜」の新設科目の開講等、海外や地域と連携した取り組みを実施した。</p> <p>成果指標 ・国家試験の合格率(%)</p> <table border="1" data-bbox="1368 852 1823 932"> <thead> <tr> <th>試験名</th> <th>R3実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健師</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	試験名	R3実績	保健師	100
試験名	現状(H29年度)	目標														
保健師	87.5	90.0														
試験名	R3目標															
保健師	90.0															
試験名	R3実績															
保健師	100															
<p>[7] ・情報系工学研究科 情報系工学研究科では、情報技術を活用して、人間・社会・自然との調和を図りながら、グローバルな視野に立って主導的に第4次産業革命を推し進め、超スマート社会及び地域社会の中核で活躍できる技術者を育成する教育を充実させる。</p>	<p>[7] ・情報系工学研究科 「吉備の杜」創造戦略プロジェクトの授業科目を通してヒューマンスキルの育成に努めるとともに、岡山県立大学協力会と協働してカリキュラムの充実を図る。また、大学院修了者の進路決定率を確保するよう、コロナ禍における企業説明会の在り方を検討する。</p>	<p>[7] ・情報系工学研究科 副専攻「吉備の杜」の履修を促進するとともに、岡山県立大学協力会会員企業において実践的な課題に取り組むなど、教育内容を充実させた。 岡山県立大学協力会の業種説明会(企業47社、院生を含め延べ176名参加)とシステムエンジニアリング岡山の企業説明会(企業19社、院生を含め延べ52名が参加)はコロナ禍のためいずれもオンラインで開催した。また、卒業生等による企業説明会を10回開催した。</p>														

中期計画	年度計画	実績状況																										
<p>[8] ・デザイン学研究科 デザイン学研究科では、グローバルな視野と感性を持ち、社会を的確に捉え、時代の変化を洞察することで、将来予想される問題を優れたデザインの創出により解決し、豊かで新しい便利な生活と文化に寄与できる人材を育成する教育を充実させる。</p> <p>成果指標〔〔6〕～〔8〕〕 ・大学院修了者の進路決定率（％）</p> <table border="1" data-bbox="371 695 808 802"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H29年度)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全研究科平均</td> <td>97.8</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考指標)〔〔6〕～〔8〕〕 ・各研究科の定員充足率 ・修了時及び修了生に対する調査による教育満足・充実感等</p>	項目	現状(H29年度)	目標	全研究科平均	97.8	100	<p>[8] ・デザイン学研究科 令和3年度から新たな学位審査基準を施行し、令和7年度に改編する研究科の3ポリシー等を検討する。また、「吉備の杜」創造戦略プロジェクトの授業科目を開講し、内容の充実を図る。</p> <p>成果指標〔〔6〕～〔8〕〕 ・大学院修了者の進路決定率（％）</p> <table border="1" data-bbox="869 695 1305 775"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R3目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全研究科平均</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R3目標	全研究科平均	100	<p>[8] ・デザイン学研究科 学内の学部生向けの説明を行うとともに、県外への広報活動を行った。 学生の自主的な研究・制作活動を促進するため、学会発表やコンペティションへの参加を促進する取り組みについて検討を進めた。</p> <p>[評価時の観点] 進路決定率は50.0%と目標を達成できず、定員充足率も低い状況が続いている。定員確保に向けて、更なる取り組みが必要である。</p> <p>成果指標〔〔6〕～〔8〕〕 ・大学院修了者の進路決定率（％）</p> <table border="1" data-bbox="1364 695 1816 775"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R3実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全研究科平均</td> <td>94.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考指標)〔〔6〕～〔8〕〕 ・各研究科の定員充足率（％）※収容定員に対する充足率</p> <table border="1" data-bbox="1364 903 1816 1281"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R3実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健福祉学研究科(博士前期)</td> <td>125.0</td> </tr> <tr> <td>情報系工学研究科(博士前期)</td> <td>94.2</td> </tr> <tr> <td>デザイン学研究科(修士)</td> <td>40.6</td> </tr> <tr> <td>保健福祉学研究科(博士後期)</td> <td>233.3</td> </tr> <tr> <td>情報系工学研究科(博士後期)</td> <td>61.1</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R3実績	全研究科平均	94.3	項目	R3実績	保健福祉学研究科(博士前期)	125.0	情報系工学研究科(博士前期)	94.2	デザイン学研究科(修士)	40.6	保健福祉学研究科(博士後期)	233.3	情報系工学研究科(博士後期)	61.1
項目	現状(H29年度)	目標																										
全研究科平均	97.8	100																										
項目	R3目標																											
全研究科平均	100																											
項目	R3実績																											
全研究科平均	94.3																											
項目	R3実績																											
保健福祉学研究科(博士前期)	125.0																											
情報系工学研究科(博士前期)	94.2																											
デザイン学研究科(修士)	40.6																											
保健福祉学研究科(博士後期)	233.3																											
情報系工学研究科(博士後期)	61.1																											

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 1 教育に関する目標を達成するためとるべき措置
 (2) 教育方法等の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況																		
<p>[9] 学習成果を上げるため、主体的・協働的な学び(アクティブ・ラーニング)の導入・推進など教育方法の改善を図る。</p> <p>成果指標 ・アクティブ・ラーニングの推進状況 (2年目以降に具体数値目標等設定)</p>	<p>[9] 授業アンケート等を検証し、授業形式(対面・ハイブリッド・オンライン)に応じたアクティブ・ラーニングの活用方法の改善を図る。</p> <p>成果指標 ・アクティブ・ラーニングの推進状況 (%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R3目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アクティブ・ラーニングの導入率</td> <td>80</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R3目標	アクティブ・ラーニングの導入率	80	<p>[9] オンライン授業におけるアクティブ・ラーニングの定義を見直した上で導入を促し、その導入率は79.7%と、目標をほぼ達成した。 学習効果の向上、教育方法の改善に向けたFD・SD研修会を開催し、多くの教員が参加した。</p> <p>FD・SD研修会開催実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>研修名</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>シラバス(到達目標)の書き方</td> <td>70人</td> </tr> <tr> <td>ループリック活用法</td> <td>59人</td> </tr> <tr> <td>相互授業参観</td> <td>63人</td> </tr> <tr> <td>授業改善意見交換会</td> <td>43人</td> </tr> </tbody> </table> <p>成果指標 ・アクティブ・ラーニングの推進状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R3実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アクティブ・ラーニングの導入率</td> <td>79.7</td> </tr> </tbody> </table>	研修名	参加人数	シラバス(到達目標)の書き方	70人	ループリック活用法	59人	相互授業参観	63人	授業改善意見交換会	43人	項目	R3実績	アクティブ・ラーニングの導入率	79.7
項目	R3目標																			
アクティブ・ラーニングの導入率	80																			
研修名	参加人数																			
シラバス(到達目標)の書き方	70人																			
ループリック活用法	59人																			
相互授業参観	63人																			
授業改善意見交換会	43人																			
項目	R3実績																			
アクティブ・ラーニングの導入率	79.7																			
<p>[10] 学生・教職員の教育研究活動を推進するため、必要な施設・設備等の充実を図り、教育研究環境の改善に努める。</p>	<p>[10] 必要な施設・設備等の充実を図るため、予算編成時期に合わせ設備等の要望調査を行い、整備に努める。また、コロナ禍でのネットワークを活用した教育に対応するための無線LAN設備の強化を進める。</p>	<p>[10] 予算編成時期に設備等の要望調査を実施し、限られた予算の中で緊急性を考慮して、以下の整備を行った。 ・超純水製造装置 ・冷凍冷蔵庫 ・介護用ベッド ・デザイン学部PC ・デザイン学部の教室環境整備</p>																		

中期計画	年度計画	実績状況														
<p>[11] 教育プログラム(科目)として、県内の自治体、企業等へのインターンシップを実施し、県内企業等を知る機会を増やすとともに、職業観の醸成など、学生のキャリア形成の支援に努める。なお、インターンシップの実施に当たっては、受入先との連携を密に行うとともに、大学において事前学習及び報告会を実施するなど教育効果が高まるよう努める。</p> <p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 長期インターンシップ参加者数(人) <table border="1" data-bbox="371 651 819 730"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H30年度)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>55</td> <td>55</td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状(H30年度)	目標	参加者数	55	55	<p>[11] 学部副専攻を「岡山創生学課程」と「吉備の杜クリエイター課程」の2つで構成することに伴い、相互で密に連携しながら、教育プログラム(科目)としてのインターンシップの実施及び演習先の開拓等の内容の充実を行う。</p> <p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 長期インターンシップ参加者数(人) <table border="1" data-bbox="869 523 1301 603"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R3目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>55</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R3目標	参加者数	55	<p>[11] 長期インターンシップの実施については、令和2年度よりも更にコロナの影響が大きい中で、オンラインの活用や学内でのPBL学習による補講等により対応し、参加者数の目標を達成した。 令和4年度から開講する「未来型プロジェクト」の演習先の開拓を進めた。</p> <p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 長期インターンシップ参加者数(人) <table border="1" data-bbox="1361 555 1834 643"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R3実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>58</td> </tr> </tbody> </table> <p>(内訳) 地域インターンシップ：33人 エンジニアリング演習：25人</p> <p>[評価時の観点] コロナ禍の影響を受けながらも、受入企業との調整や教育内容の充実に努めるなど、長期インターンシップ参加者数の目標を達成した。</p>	項目	R3実績	参加者数	58
項目	現状(H30年度)	目標														
参加者数	55	55														
項目	R3目標															
参加者数	55															
項目	R3実績															
参加者数	58															

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
2 学生の確保に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況
<p>[12]</p> <p>新たな入試制度が始まる平成33(2021)年度入試に対応するため学士課程入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)の見直しとそれに基づく入学者選抜を実施するとともに、実施結果の点検・評価に基づき改善を図る。</p> <p>さらに、新高等学校学習指導要領に基づく教育を受けた平成37(2025)年度入学生を受入れに向けて入学者選抜方法やカリキュラムの改善を図る。</p> <p>(参考指標) ・入試実施状況、入学者選抜に係る変更状況</p>	<p>[12]</p> <p>新学習指導要領に基づく教育を受けた令和7(2025)年度入学生を受入れに向けてアドミッション・ポリシーや入学者選抜方法の見直し、改善を図る。</p>	<p>[12]</p> <p>令和7年度入試改革に向けた学力評価方法の改善を目的として、アドミッション・ポリシーに沿った入試問題が作成されているか入試委員会委員で検証を始めるとともに、入試結果解析及び入学後の成績の追跡調査を行った。</p> <p>栄養学科及び現代福祉学科については、令和6年入試から入試日程別の定員を変更し、公表した。</p> <p>令和3年度一般選抜(前期日程・デザイン学部ビジュアルデザイン学科)において成績開示を行った本学学生からの相談により、大学入学共通テストの利用科目の設定を誤ったまま合否判定を行ったことが判明した。合格者に変更はなかったが、本来欠格者であった受験者1人について検定料の返還を行うとともに、本来合格者であった追加合格者1人が他大学の入学辞退で返金されなかった費用の補償を行った。</p> <p>[評価時の観点] 入試システム上の重大なミスや、外部からの指摘で判明するまで見逃しており、入試ミスの防止体制が不十分であった。</p>
<p>[13]</p> <p>加速する18歳人口の減少により大学間競争が激化し、かつ、多様化する入学者選抜に備えて、アドミッション・オフィス機能を整備し、志願者動向等についての調査・分析による入学者選抜等の改善を図るとともに、本学の教育研究の特色・強みを効果的に周知するため、戦略的な入試広報の充実を図り、本学への志願者数を</p>	<p>[13]</p> <p>戦略的な入試広報を実施するため、入試・広報担当副学長を配置するとともに、学内の連携を強めて事業及び実施体制の検討を行い、広報を強化する。</p>	<p>[13]</p> <p>入試情報の発信のために専用のLINEアカウントを導入し、高校生に向けた入試情報の発信を積極的に行った。</p> <p>学生広報委員会を発足させ、各種イベント等において学生目線での入試広報活動を行った。オンラインを中心とした高校訪問の他、志願者数上位の高校には個別に現地訪問を実施し、高校側の受験の現状や本学への要望を</p>

中期計画	年度計画	実績状況														
<p>維持する。</p> <p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般前期入試での志願倍率(倍) <table border="1" data-bbox="371 331 813 464"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状 (H26—H31 年度入試)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部 平均</td> <td>3.2</td> <td>3.2</td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状 (H26—H31 年度入試)	目標	全学部 平均	3.2	3.2	<p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般前期入試での志願倍率(倍) <table border="1" data-bbox="898 264 1312 347"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R3目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>3.2</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R3目標	全学部平均	3.2	<p>収集し、各学部学科へ情報提供した。</p> <p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般前期入試での志願倍率(倍) <table border="1" data-bbox="1368 331 1832 411"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R3実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>3.0</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R3実績	全学部平均	3.0
項目	現状 (H26—H31 年度入試)	目標														
全学部 平均	3.2	3.2														
項目	R3目標															
全学部平均	3.2															
項目	R3実績															
全学部平均	3.0															
<p>[14]</p> <p>高校生のための大学授業開放や高校への講師派遣、高校の進路指導担当教員との意見交換会など、各種の高大連携事業の方法・内容の改善を図るとともに、効果的な事業の開発、推進を図る。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 高大連携における教育的事業／広報的事業の実施状況(件数等) 	<p>[14]</p> <p>高大連携事業について、コロナ禍においても継続できる効果的な実施方法も含めて拡充実施の検討を進めるとともに、新規事業を計画する。</p>	<p>[14]</p> <p>学生広報委員会により、高校生向けのイベントで学生の目線での発信を行うなど、積極的な入試広報を展開した。</p> <p>オープンキャンパスをオンラインで開催し、学部・学科の紹介に加え「リモート個別相談会」と「受験生のためのデッサン講評」を実施した。</p> <p>「高校生と大学生の地域における探究学習の成果報告会」を開催し、高校との連携を深め積極的な入試広報活動に取り組んだ。</p> <p>高校等教員対象進学説明会や高等学校校長協会との懇談会、県内高校校長の有志との高大連携作業部会を開催し、高大連携を深め、今後の入試改革等につながる情報収集に努めた。</p>														

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

3 学生の支援に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 学習支援の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況								
<p>[15] 附属図書館において、学生等の多様なニーズに応えるため、学習空間の提供、教育研究・学習に必要な資料の整備・充実、教育研究支援等、図書館サービスの充実に取り組む。</p> <p>(参考指標) ・附属図書館の利用状況及び満足度</p>	<p>[15] 大学アンケート等における図書館関連事項の調査分析を進め、図書館サービスの充実に向けた取組について検討する。また、学生の学修形態多様化に応じつつ、限られた予算で効率良く維持整備を図るために、電子書籍や電子ジャーナルの充実と見直しを継続的に行う。</p>	<p>[15] コロナ禍においても学生が図書館を安心して利用出来るよう、感染症対策を実施した上で開館した。 データベースのトライアルやリモート用IDの準備等、図書館をオンラインで活用出来るよう支援を行った。 各学科の選書により電子書籍を整備し、所蔵数は約1,200タイトルとなった。 ブックフェア、選書ツアー、学生希望図書等の学生目線による選書イベントをオンラインで開催し、約300冊の図書を購入した。</p>								
<p>[16] アクティブ・ラーニングに対応する教室や自習環境の充実、学習環境整備や学内の連携体制などを工夫・改善し、学習支援の充実に取り組む。</p> <p>成果指標 ・アクティブ・ラーニングの推進状況(2年目以降に具体数値目標等設定)(再掲：9)</p> <p>(参考指標) ・学生の自習状況及び学内の自習環境に対する利用状況・満足度(演習室の延べ利用者数、自習に関するアンケート)</p>	<p>[16] 学生の自習状況及び学内外の自習環境に対する利用状況・満足度について分析・検証し、授業形式(対面・ハイブリッド・オンライン)に応じたアクティブ・ラーニングの活用方法を改善し、学生の主体的な学習支援の充実を図る。</p> <p>成果指標 ・アクティブ・ラーニングの推進状況(再掲：9)</p> <table border="1" data-bbox="909 1193 1317 1299"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R3目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アクティブ・ラーニングの導入率</td> <td>80</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R3目標	アクティブ・ラーニングの導入率	80	<p>[16] オンライン授業におけるアクティブ・ラーニングの定義を見直した上で導入を促し、その導入率は79.7%と、目標をほぼ達成した。 学内の自主学習スペースであるラーニングコモンズの紹介チラシを作成し、学生へ周知を図り、利用促進に努めた。</p> <p>成果指標 ・アクティブ・ラーニングの推進状況(再掲：9)</p> <table border="1" data-bbox="1368 1161 1845 1267"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R3実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アクティブ・ラーニングの導入率</td> <td>79.7</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R3実績	アクティブ・ラーニングの導入率	79.7
項目	R3目標									
アクティブ・ラーニングの導入率	80									
項目	R3実績									
アクティブ・ラーニングの導入率	79.7									

中期計画	年度計画	実績状況
<p>[17]</p> <p>学修支援体制の充実を図るため、学生毎にアドバイザー教員を決め進路や学業などの相談を受けるアドバイザー制度及び教員が学生の訪問時間帯を設けて研究室で待機し、授業等の疑問点や個人的な悩みなどの相談を受けるオフィスアワーを活用するとともに、学生に授業等の補助を担わせるスチューデント・アシスタント制度の整備に努める。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> スチューデント・アシスタント(SA)制度の整備・利活用状況、アドバイザー面談、オフィスアワーの実施状況(関連：第2-3-(2)生活支援の充実) 	<p>[17]</p> <p>アドバイザー制度、オフィスアワー制度を充実させるために、「教職員のための学生対応マニュアル」の作成に着手するとともに、スチューデント・アシスタントを制度化するための整備を実施する。</p>	<p>[17]</p> <p>アドバイザー面談、オフィスアワーともに高い実施率であった。</p> <p>教職員のための学生対応マニュアルの作成、休学・退学を考える学生との面談の強化、面談報告書作成のルール作成等、多様化する学生相談への対応や、休退学者数の減少に向けた対策を実施した。</p> <p>学生支援団体PZLの学生を中心に実施しているオンライン相談窓口をスチューデント・アシスタントとして制度化するよう検討を進めた。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> アドバイザー面談の実施率：前期 95.5% 後期 94.1%
<p>[18]</p> <p>学生の豊かな人格形成に資するため、大学との連携の下、学生が主体となり学内外のボランティア活動や授業、教育、学内環境改善等に関わる活動である学生FD(ファカルティ・ディベロップメント)活動を推進するなど、学生の主体性を尊重した正課外活動支援体制の整備に努める。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生の正課外活動への支援状況 正課外ボランティア活動への参加状況(参加要請数、参加延学生数) 	<p>[18]</p> <p>学生の積極的なボランティア活動を促すための情報提供や活動支援を行う体制を検討するとともに、学生団体による学生FD活動を支援する。</p>	<p>[18]</p> <p>学外からのボランティア募集情報を積極的に発信するとともに、外部講師を招いて災害ボランティア研修並びに学生スタッフ養成のための研修会を実施した。</p> <p>学内ボランティア団体のメンバー募集や活動支援、相談スペースの開放、ボランティア活動普及のための冊子・動画の作成等、学生の主体的な活動の活性化に取り組んだ。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生の正課外活動への支援状況 正課外ボランティア活動への参加状況 ボランティア活動：申込者数延べ67名 ボランティア研修：申込者数延べ33名 災害ボランティア研修：参加者45名 学生スタッフ養成のための研修：参加者5名

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

3 学生の支援に関する目標を達成するためとるべき措置

(2) 生活支援の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況
<p>[19] 学生のメンタルサポートのために、学生相談体制の充実を図るとともに、保健室、アドバイザー教員と連携した支援に努める。 また、奨学金制度や授業料減免制度について周知を図り、財源に応じた経済支援を行うほか、国の高等教育段階の教育費負担軽減新制度(平成32(2020)年度開始予定)に備え、必要に応じ準備・適用を行う。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各窓口の利用状況 ・退学・休学者数 ・修業年限内卒業率 ・スチューデント・アシスタント(SA)制度の整備・利活用状況、アドバイザー面談、オフィスアワーの実施状況(再掲：17) ・減免適用状況(学生数・減免総額) (※平成32(2020)年度から適用となれば国の給付型奨学金の適用状況) 	<p>[19] 精神科の学校医、保健室、学生相談室及び教職員が連携して学生のメンタルサポートを実施するための「教職員のための学生対応マニュアル」の作成を含めた体制整備を図るとともに、財政的困窮学生に対して情報と支援が行き届くよう努める。</p>	<p>[19] 精神科の学校医により、発達障害の特性とその対応について理解を深めるためのオンライン研修会を行った。 アドバイザー教員から相談室や保健室に対して適切に学生をつなぐため、「教職員のための学生対応マニュアル」を作成するとともに、学生には相談窓口を紹介する案内チラシを発行した。 修学支援新制度や授業料減免に加え、経済団体から寄贈された食料支援物資の配付や国の緊急給付金の申請受付・審査・推薦手続きを行い、学生の支援を行った。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各窓口の利用状況(延べ人数) 学生相談室：学生213人、その他2人 保健室：474人 ・退学・休学者数 退学者：学部22人、大学院11人 休学者：学部29人、大学院14人 ・修業年限内卒業率 学部：91.0% 大学院(博士前期・修士)：77.1% 大学院(博士後期)：33.3% ・授業料減免適用状況 申請件数：188件 減免総額：80,107千円 <p>[評価時の観点] 教職員の学生へのメンタルサポート意識を向上させるとともに、学生対応マニュアルの</p>

中期計画	年度計画	実績状況
<p>[20] 障がい学生等が充実した生活を送ることができるよう合理的配慮の充実に努める。</p> <p>(参考指標) ・ 配慮要請件数と合理的配慮提供件数</p>	<p>[20] 障がい学生支援のあり方等について、研修会や「教職員のための学生対応マニュアル」を通して周知を図り、適切な対応に努める。また、合理的配慮の情報が教科担当教員に確実にいきわたるように運用の検討を図る。さらに、予算の必要な配慮については、計画的に要求しながら実現に向けた検討を行う。</p>	<p>作成等により学生を適切にサポートするための体制づくりを進めることができた。</p> <p>[20] 精神科の学校医により、発達障害の特性とその対応について理解を深めるためのオンライン研修会を行った。 入学生4名を含む12名の学生に対して新たに合理的配慮を実施した。 合理的配慮を実施している学生については、学生生活支援部門で情報を共有しながら、継続的に配慮を実施し、配慮要請を出していない学生についても担当部門内で状況の意見交換を頻繁に行った。</p> <p>(参考指標) ・ 配慮要請件数：12件 ・ 合理的配慮提供件数：23件</p> <p>[評価時の観点] 配慮申請があった学生に対して、適切に合理的配慮を行うとともに、配慮の情報を各教科担当教員へ情報共有する仕組みの整備を進めた。</p>

- 第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 3 学生の支援に関する目標に関する目標を達成するためとるべき措置
 (3) 就職支援の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況																																							
<p>[21] これまで学部学科別等、個別に実施していた就職支援について情報を共有するとともに、学生への多様な就職支援策を充実させるため、キャリア形成支援及び学生生活支援の柱となるキャリア・学生生活支援センター(仮称)を設置し、各種支援を充実させる。</p> <p>成果指標 ・就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合(%) (再掲：4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H29年度卒)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>51.8</td> <td>55.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考指標) ・就職満足度(卒業時アンケート) ・卒業生の就職率(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>現状(H29年度卒)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健福祉学部</td> <td>97.7</td> <td>99.0</td> </tr> <tr> <td>情報工学部</td> <td>96.9</td> <td>98.0</td> </tr> <tr> <td>デザイン学部</td> <td>88.1</td> <td>90.0</td> </tr> <tr> <td>学部計</td> <td>95.3</td> <td>97.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※就職率=就職者数/就職希望者</p>	項目	現状(H29年度卒)	目標	全学部平均	51.8	55.0	学部名	現状(H29年度卒)	目標	保健福祉学部	97.7	99.0	情報工学部	96.9	98.0	デザイン学部	88.1	90.0	学部計	95.3	97.0	<p>[21] 県内企業インターンシップの広報、ニュースレターによる広報活動を活発化させるとともに各学科と就職相談室の連携を強化する。また、県内企業に就職したOBによる「県大吉備塾」等の企画、学生の就職・キャリア形成支援等の各種支援策を強化する。</p> <p>成果指標 ・就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合(%) (再掲：4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R3目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>53.5</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R3目標	全学部平均	53.5	<p>[21] 就職相談室によるニュースレターを年6回発行し、学生への就職支援情報を発信した他、オンライン、電話等を含む就職相談761件、来学企業対応162社、求人NAVIによる求人票アップロード979件を行うなど、学生の就職支援や情報提供の充実を図った。 就職ガイダンス、県大吉備塾等の各種支援活動を、オンラインも活用して実施した。</p> <p>成果指標 ・就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合(%) (再掲：4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R3実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>53.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考指標) ・卒業生の就職率(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>R3実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健福祉学部</td> <td>99.3</td> </tr> <tr> <td>情報工学部</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>デザイン学部</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>学部計</td> <td>99.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>[評価時の観点] 学生の就職やキャリア形成支援に向けた各種支援を実施し、県内就職率も53.9%と目標を達成した。</p>	項目	R3実績	全学部平均	53.9	学部名	R3実績	保健福祉学部	99.3	情報工学部	100	デザイン学部	100	学部計	99.6
項目	現状(H29年度卒)	目標																																							
全学部平均	51.8	55.0																																							
学部名	現状(H29年度卒)	目標																																							
保健福祉学部	97.7	99.0																																							
情報工学部	96.9	98.0																																							
デザイン学部	88.1	90.0																																							
学部計	95.3	97.0																																							
項目	R3目標																																								
全学部平均	53.5																																								
項目	R3実績																																								
全学部平均	53.9																																								
学部名	R3実績																																								
保健福祉学部	99.3																																								
情報工学部	100																																								
デザイン学部	100																																								
学部計	99.6																																								

中期計画	年度計画	実績状況														
<p>[22] 企業等へのインターンシップに関する情報提供及び機会創出と併せて、学生のキャリア形成を支援する科目を充実させることで学生の主体的な職業選択を促し、職業意識を醸成させる。</p> <p>成果指標 ・長期インターンシップ参加者数(人) (再掲：11)</p> <table border="1" data-bbox="371 549 808 663"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H30年度)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>55</td> <td>55</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考指標) ・インターンシップ実施状況(参加延学生数等) ・キャリア形成を支援する科目の履修登録者数 ・各種就職ガイダンスの実施状況</p>	項目	現状(H30年度)	目標	参加者数	55	55	<p>[22] 岡山県立大学協力を中心とする県内企業にインターンシップ受入れの働きかけを行うとともに、インターンシップの案内や開催状況を学生に提供する。また、エンジニアリング演習、地域インターンシップ等の授業科目を学生へ浸透させるよう務める。</p> <p>成果指標 ・長期インターンシップ参加者数(人) (再掲：11)</p> <table border="1" data-bbox="869 612 1263 692"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R3目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>55</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R3目標	参加者数	55	<p>[22] 長期インターンシップの実施については、令和2年度よりも更にコロナの影響が大きい中で、オンラインの活用や学内でのPBL学習による補講等により対応し、参加者数の目標を達成した。 就職ガイダンスはオンラインでのライブ配信で実施し、実施件数、参加学生数ともに昨年度から増加した。 岡山県立大学協会の企業と連携し、業種説明会による県内企業の情報発信や、寄附講座「技術者と社会」によるキャリア教育を実施した。</p> <p>成果指標 ・長期インターンシップ参加者数(人) (再掲：11)</p> <table border="1" data-bbox="1364 775 1800 855"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R3実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>58</td> </tr> </tbody> </table> <p>(内訳) 地域インターンシップ：33人 エンジニアリング演習：25人</p> <p>(参考指標) ・インターンシップ実施状況(参加延学生数等) 総社市インターンシップ：短期 8人 長期27人 ・キャリア形成を支援する科目の履修登録者数 社会を生きる力を学ぶ：89名 企業の組織と活動：2名 ・各種就職ガイダンスの実施状況 実施件数：18件 参加学生数：約860人</p> <p>[評価時の観点] コロナ禍の影響を受けながらも、キャリア形成支援を充実させ、長期インターンシップ参加者数の目標を達成した。</p>	項目	R3実績	参加者数	58
項目	現状(H30年度)	目標														
参加者数	55	55														
項目	R3目標															
参加者数	55															
項目	R3実績															
参加者数	58															

中期計画	年度計画	実績状況
<p>[23] 卒業生に対して同窓会や各種フォーラム等への積極的な参加を呼びかけ、連携を深めることにより、在学生に対する助言・指導等の協力を得られるよう努める。</p> <p>(参考指標) ・県大吉備塾等、卒業生に協力を求める取組状況</p>	<p>[23] 「県大吉備塾」を実施し、県内外で活躍する本学卒業生を招き、仕事内容や業界情報、在学時の取組等の情報や知識を深め、就職やキャリア形成に対するモチベーションをアップする取組を行うとともに、事業の内容充実に向けた検討を行う。</p>	<p>[23] 「県大吉備塾」をコロナウイルスの感染状況に応じてオンラインも併用して実施し、参加した学生からのアンケートにより高い評価結果が得られ、講師の卒業生からも高い有用性が評価された。</p> <p>キャリア形成支援の評価・検証と今後の改善に活用するため、卒業・修了後3～5年を経過した者を対象とした卒業生・修了生アンケートを実施し、集計結果を取りまとめ、今後の改善につなげられる取り組みを行った。</p> <p>(参考指標) ・県大吉備塾実施状況 実施回数：9回 ・卒業生・修了生アンケート 回答数：186人</p>

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

4 研究に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 研究の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況														
<p>[24]</p> <p>学内の競争的研究資金のあり方を見直し、本学の研究活動における特色・強みを明確化するとともに、産業の振興や地域課題の解決の観点も踏まえ、重点的に取り組むべき研究分野を示し、研究力向上及び研究活動の活性化を図る。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究活動の特色や重点研究分野の明確化に関する推進状況 研究活性化の状況 	<p>[24]</p> <p>本学の研究活動の特色や強みを高める上で有効な学内競争的資金制度が構築できているかどうかの評価を行い、必要に応じて改善を行う。</p>	<p>[24]</p> <p>学内競争的資金制度の応募条件に外部資金申請・作品出展をしていることを条件とするなど、より外部資金獲得への積極性を重視して募集・審査・分配を実施した。また、制度の分析・評価を継続し、論文成果数・外部資金獲得等への有効性の可視化を進めることとした。</p> <p>県とのスタディミーティングに関しては、県からの新規要望（EBPM対応：科学的根拠に基づく政策立案）に関するテーマを設定して実施した。</p>														
<p>[25]</p> <p>競争的研究資金及び国・民間等の公募型研究助成事業への積極的な申請を奨励するとともに、採択率の向上に努める。</p> <p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 公募型研究助成事業の採択数(科学研究費補助金を除く。)(件) <table border="1" data-bbox="371 1161 808 1265"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H25-H30.11月時点の平均)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>21.5</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table> <p>※「国・省庁の政府系助成金」及び「民間からの助成金」</p> <ul style="list-style-type: none"> 科学研究費補助金採択率(%) 	項目	現状(H25-H30.11月時点の平均)	目標	件数	21.5	25	<p>[25]</p> <p>外部競争的研究資金に関する公募情報を提供して採択数の増加を目指すとともに、科学研究費の計画書作成勉強会、提出前検討会等の申請支援活動の検証・見直しを行い、新規採択率の向上に努める。</p> <p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 公募型研究助成事業の採択数(科学研究費補助金を除く。)(件) <table border="1" data-bbox="878 1225 1274 1305"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R3目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>23</td> </tr> </tbody> </table> <p>※「国・省庁の政府系助成金」及び「民間からの助成金」</p> <ul style="list-style-type: none"> 科学研究費補助金採択率(%) 	項目	R3目標	件数	23	<p>[25]</p> <p>外部競争的研究資金については、公募情報のメール配信や本学ウェブサイトへの掲載により、応募を促した。</p> <p>科学研究費への申請を支援するため、計画書作成勉強会・提出前検討会を開催するとともに、その内容の検証・見直しを行い、申請数は68件と増加したが、採択数は16件と昨年と同数、採択率は23.5%と低下した。</p> <p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 公募型研究助成事業の採択数(科学研究費補助金を除く。)(件) <table border="1" data-bbox="1364 1257 1760 1337"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R3実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>15</td> </tr> </tbody> </table> <p>※「国・省庁の政府系助成金」及び「民間からの助成金」</p> <ul style="list-style-type: none"> 科学研究費補助金採択率(%) 	項目	R3実績	件数	15
項目	現状(H25-H30.11月時点の平均)	目標														
件数	21.5	25														
項目	R3目標															
件数	23															
項目	R3実績															
件数	15															

中期計画			年度計画		実績状況	
項目	現状 (H25 - H30年度平均)	目標	項目	R3目標	項目	R3実績
採択率	24.9	27	採択率	27.0	採択率	23.5
※第3期中期計画の期間において、経過年度の平均値で評定 (関連：第3-2-(1))			※第3期中期計画の期間において、経過年度の平均値で評定 (関連：第3-2-(1))		[評価時の観点] 公募型研究助成や科学研究費の獲得支援は継続したが、公募型研究助成事業採択数15件、科学研究費採択率23.5%と、ともに低調となった。	

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 4 研究に関する目標を達成するためとるべき措置
 (2) 多様な研究活動の展開に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況																					
<p>[26] 企業・団体等との連携研究により、産業界の発展に寄与する研究を充実する。併せて、共同研究費等の獲得に向けた取組を行う。</p> <p>成果指標 ・地域の企業・団体等との共同研究費・受託研究費・教育研究奨励金の獲得状況(合計)(件、千円)</p> <table border="1" data-bbox="371 719 817 866"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H24-H29年度平均)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>109.5</td> <td>130</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>86,600</td> <td>100,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>※件数又は金額を到達基準とする</p>	項目	現状(H24-H29年度平均)	目標	件数	109.5	130	金額	86,600	100,000	<p>[26] アクティブ・ラボ、各種セミナー等への参加状況と共同研究等の獲得状況の分析結果から、産学連携に効果的な本学シーズの発信方法等を検討し、実施する。</p> <p>成果指標 ・地域の企業・団体等との共同研究費・受託研究費・教育研究奨励金の獲得状況(合計)(件、千円)</p> <table border="1" data-bbox="869 751 1283 871"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R3目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>120</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>85,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>※件数又は金額を到達基準とする</p>	項目	R3目標	件数	120	金額	85,000	<p>[26] アクティブ・ラボを70回実施し、産学官連携や共同研究の獲得に取り組んだ。共同研究等は件数・金額ともに低迷したが、これまで産学官連携活動に積極的でなかった教員が参加するなど、取り組みの底上げを行った。</p> <p>成果指標 ・地域の企業・団体等との共同研究費・受託研究費・教育研究奨励金の獲得状況(合計)(件、千円)</p> <table border="1" data-bbox="1361 783 1778 903"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R3実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>83</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>44,932</td> </tr> </tbody> </table> <p>[評価時の観点] コロナ禍の影響で、企業からの共同研究費等の獲得が難しい状況であったことから、獲得件数、金額ともに低調であった。</p>	項目	R3実績	件数	83	金額	44,932
項目	現状(H24-H29年度平均)	目標																					
件数	109.5	130																					
金額	86,600	100,000																					
項目	R3目標																						
件数	120																						
金額	85,000																						
項目	R3実績																						
件数	83																						
金額	44,932																						

中期計画	年度計画	実績状況								
<p>[27] 本学の専門分野の特性を生かして、学部を越えた分野連携による新規性の高い研究開発を積極的に推進する。</p> <p>(参考指標) ・学部を越えた分野連携による研究状況(件数、参加人数、成果等)</p>	<p>[27] 学部を越えた研究分野の連携を推進する上で有効な学内競争的資金制度が構築できているかどうかの評価を行い、必要に応じて改善を行う。</p>	<p>[27] 学内競争的資金制度のうち、重点領域研究は、学部学科の枠を越えた教員が協力して進める課題に限定して採択するとともに、課題ごとに研究期間終了後に獲得を目指す研究助成金を定め、大型外部資金の獲得に繋げる方向性を明確にした。また、制度の分析・評価を継続し、論文成果数・外部資金獲得等への有効性の可視化を進めることとした。</p> <p>県幹部に本学教員が研究や地域貢献活動を発表し意見交換を行うスタディミーティングでは、県からの新規要望（EBPM対応：科学的根拠に基づく政策立案）に関するテーマを設定して実施した。</p> <p>(参考指標) ・学部を越えた分野連携による研究状況 重点領域研究：7件</p> <table border="1" data-bbox="1391 802 1868 1297"> <thead> <tr> <th>研究課題名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学士課程教育における看護学の学びの統合のための教授方法開発</td> </tr> <tr> <td>重度心身障害児（者）における食事支援としての米麹甘酒の有効性</td> </tr> <tr> <td>協力の認知—メンタルヘルスからコミュニケーション教育まで</td> </tr> <tr> <td>身体性メディアを活用したインタラクション支援技術</td> </tr> <tr> <td>地域連携を基盤とした健康長寿の実現を鑑みた包括的介入試験</td> </tr> <tr> <td>車いす介助者の負担軽減のための新規機械式パワーアシストシステムの開発</td> </tr> <tr> <td>ユーザ・アジャスタブルな減災情報提供システムの検討</td> </tr> </tbody> </table>	研究課題名	学士課程教育における看護学の学びの統合のための教授方法開発	重度心身障害児（者）における食事支援としての米麹甘酒の有効性	協力の認知—メンタルヘルスからコミュニケーション教育まで	身体性メディアを活用したインタラクション支援技術	地域連携を基盤とした健康長寿の実現を鑑みた包括的介入試験	車いす介助者の負担軽減のための新規機械式パワーアシストシステムの開発	ユーザ・アジャスタブルな減災情報提供システムの検討
研究課題名										
学士課程教育における看護学の学びの統合のための教授方法開発										
重度心身障害児（者）における食事支援としての米麹甘酒の有効性										
協力の認知—メンタルヘルスからコミュニケーション教育まで										
身体性メディアを活用したインタラクション支援技術										
地域連携を基盤とした健康長寿の実現を鑑みた包括的介入試験										
車いす介助者の負担軽減のための新規機械式パワーアシストシステムの開発										
ユーザ・アジャスタブルな減災情報提供システムの検討										

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 4 研究に関する目標を達成するためとるべき措置
 (3) 研究成果の還元に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況
<p>[28] 地域の活性化や産業振興に貢献するため、地域ニーズの把握に努め、本学の専門分野における知的資源の提供を行うことにより、地域社会が抱える課題への提言・助言を行うシンクタンクの役割を果たす。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域課題への研究成果の還元、政策課題への提言・助言の実績 ・OPUフォーラム等における県内企業成果展示件数 ・自治体等からの委員の委嘱件数 ・自治体等への講師派遣件数 	<p>[28] 業種説明会及び岡山県立大学協会からの寄付講座を通じて地元企業の魅力を学生に周知する。また、岡山県立大学協会の活動を軸として、交流会・講習会等をコロナ禍における開催方法を検討しながら継続して実施する。</p>	<p>[28] コロナ禍の影響を受け、OPUフォーラムはオンラインで実施し県内企業から10件の展示があった。また、岡山県寄附講座「組込みシステム・AI」は基礎編・実践編を開催し、それぞれ30名・21名の受講があった。</p> <p>企業による業種説明会もオンラインで実施し、岡山県立大学協会の業種説明会には47社が出展し4日間で学生延べ176名が参加、システムエンジニアリング岡山の合同企業説明会には19社が出展し学生52名が参加した。</p> <p>OPU協会の寄附講座「技術者と社会」は24名が履修するなど、企業との連携に寄与できた。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治体等からの委員の委嘱件数 岡山県：59件 市町村：69件(うち県内65件) 国・独立行政法人：10件 ・自治体等への講師派遣件数 岡山県：10件 市町村：15件(うち県内11件) 国・独立行政法人：2件

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

5 地域貢献に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 地域連携教育の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況																																
<p>[再掲：4] 地域に愛着を持ち、その発展に寄与する意欲・能力を育むため、COC+の一環として設置した副専攻「岡山創生学」の成果を継承し、さらなる地域連携教育の充実・改善を図る。</p> <p>成果指標 ・就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合(%) (再掲：4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H29年度卒)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>51.8</td> <td>55.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考指標) ・地域連携教育の実施状況(地域の学外関係者による講座数を含む。) (再掲：4)</p>	項目	現状(H29年度卒)	目標	全学部平均	51.8	55.0	<p>[再掲：4] 学部副専攻を「岡山創生学課程」と「吉備の杜クリエイター課程」の2つで構成することに伴い、相互で密に連携しながら、充実・改善した副専攻科目の実施と検証を継続する。また、新型コロナウイルス等の社会情勢に柔軟に対応した実施方法の改善を図る。</p> <p>成果指標 ・就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合(%) (再掲：4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R3目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>53.5</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R3目標	全学部平均	53.5	<p>[再掲：4] 副専攻「吉備の杜」は、感染予防対策を施し、オンラインと対面の使い分けや併用をしながら開講した。 演習科目について担当者間で省察を行い、次年度以降の改善に向けた検討を行った。 地域創生推進士の認定要件の説明会を開くなど、認定者の確保に向けた広報を行った。 地域創生推進士は34名を認定した。</p> <p>成果指標 ・就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R3実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>53.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考) 地域創生推進士の県内就職率：71.4%</p> <p>(参考指標) ・地域連携教育の実施状況 ・副専攻科目の単位修得者数(人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>社会連携要論</td> <td>333</td> </tr> <tr> <td>地域創生演習</td> <td>104</td> </tr> <tr> <td>地域資源論</td> <td>356</td> </tr> <tr> <td>地域創生実践論</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>地域インターンシップ</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>エンジニアリング演習</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>フードビジネス学</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>チームガバナビリティ演習</td> <td>34</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R3実績	全学部平均	53.9	科目名	人数	社会連携要論	333	地域創生演習	104	地域資源論	356	地域創生実践論	60	地域インターンシップ	33	エンジニアリング演習	25	フードビジネス学	30	チームガバナビリティ演習	34
項目	現状(H29年度卒)	目標																																
全学部平均	51.8	55.0																																
項目	R3目標																																	
全学部平均	53.5																																	
項目	R3実績																																	
全学部平均	53.9																																	
科目名	人数																																	
社会連携要論	333																																	
地域創生演習	104																																	
地域資源論	356																																	
地域創生実践論	60																																	
地域インターンシップ	33																																	
エンジニアリング演習	25																																	
フードビジネス学	30																																	
チームガバナビリティ演習	34																																	

中期計画	年度計画	実績状況																
		<table border="1" data-bbox="1373 196 1861 499"> <tr> <td>地域保健福祉演習</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>組込みシステム</td> <td>115</td> </tr> <tr> <td>技術者と社会</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>セキュリティ総論</td> <td>78</td> </tr> <tr> <td>知的制御システム</td> <td>59</td> </tr> <tr> <td>森林生態学・地盤工学</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>森林・木材学演習</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>木構造学・木構造デザイン</td> <td>17</td> </tr> </table> <p data-bbox="1346 520 1899 643"> 〔評価時の観点〕 副専攻「吉備の杜」による地域連携教育を充実させるとともに、令和3年度卒業生の県内就職率が53.9%と上昇し、目標を達成した。 </p>	地域保健福祉演習	15	組込みシステム	115	技術者と社会	21	セキュリティ総論	78	知的制御システム	59	森林生態学・地盤工学	18	森林・木材学演習	19	木構造学・木構造デザイン	17
地域保健福祉演習	15																	
組込みシステム	115																	
技術者と社会	21																	
セキュリティ総論	78																	
知的制御システム	59																	
森林生態学・地盤工学	18																	
森林・木材学演習	19																	
木構造学・木構造デザイン	17																	
<p data-bbox="365 671 815 826"> 〔29〕 SDGs（持続可能な開発目標）の理念を意識した地域連携教育に取り組み、理念の普及と社会貢献活動を推進する。 </p> <p data-bbox="365 863 815 954"> （参考指標） ・地域住民等を対象とした各種講演・講座等の開催状況（趣旨・回数・参加者数） </p>	<p data-bbox="857 671 1308 1050"> 〔29〕 「岡山創生学課程」に加え「吉備の杜」創造戦略プロジェクトと連携しつつ、SDGsアクションプラン2020の地域活性化、科学技術イノベーションに関連する地域連携教育を県内自治体や企業等とともに推進する。また、地域住民等を対象とした、地域活性化の人材育成に関する各種講演・講座等を実施するとともに、コロナ禍においても取組を継続させるための開催方法を検討する。 </p>	<p data-bbox="1346 671 1899 1050"> 〔29〕 大学コンソーシアム岡山の地域貢献委員会として、各自治体との講師派遣に関する協議を行い、真庭市1件、赤磐市1件の講師派遣を実施した。 健康、運動、食育、子育て支援など講座等14事業を実施予定であった「コミュニティキャンパスおかやま」は、コロナ禍の影響により一部の事業は中止となったが、感染症対策やオンライン開催への変更も行いつつ開催し、オンラインでの参加者も含めると計560名が参加した。 </p>																

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

5 地域貢献に関する目標を達成するためとるべき措置

(2) 地域貢献活動の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況
<p>[30] 本学の教育研究資源を生かして地域の課題解決に取り組むため、地域との連携による協働事業を推進するとともに、各種講演・講座やワークショップ等のプログラムの充実を図る。</p> <p>(参考指標) ・地域住民等を対象とした各種講演・講座等の開催状況(趣旨・回数・参加者数) (再掲：29)</p>	<p>[30] 地域住民等を対象とした、地方創生に資する各種講演・講座等を実施する。また、地域のニーズを調査するとともに、地方創生SDGs(持続可能なまちづくりや地域活性化)に関連したテーマや、コロナ禍においても取組を継続させるための開催方法を検討する。</p>	<p>[30] 「コミュニティキャンパスおかやま」事業は、健康、運動、食育、まちづくりなど16事業を、感染状況に配慮しながら実施した。また「子育てカレッジ」事業は、9回の協働授業、1回の保育講座、6回の意見交換会を実施し、延べ131組の親子が参加した。</p> <p>連携自治体からの依頼に加え、その他の自治体や団体からの相談にも対応し、中山間地域活性化に資する事業を推進した。また総社移住・創業サポートセンター(S-スタ)の開所に伴い、各種協議を実施した。</p>

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
6 グローバル化に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況																																
<p>[31] 国際交流の内容を精査し、今後に向けた国際交流協定校等との交流のあり方について検討を進め、必要に応じて見直すなどにより、国際交流協定校等との教育研究における交流の充実を図る。</p> <p>(参考指標) ・国際交流協定締結校との交流実績(教育・研究) ・(上記実績を踏まえた)国際交流協定校等との交流内容の充実にに向けた検討・見直し状況</p>	<p>[31] 国際交流協定締結校等とのオンラインでの交流も含めた教育・研究のグローバル活動を各学部・研究科で積極的に推進し、実践的な英語活用の場を提供する支援体制を整える。</p>	<p>[31] 令和3年度に入ってもコロナ禍の影響が続いており、海外での研修を行うことはできなかったが、オンラインによる環境がさらに整備されたことから、ウェビナー、オンライン海外インターンシップ、オンライン海外シンポジウム、オンライン英会話等を実施した。</p> <p>日本学生支援機構による留学支援制度～トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム～に2名の学生が採択され、カナダ及びドイツに留学した。</p> <p>(参考指標) ・国際交流協定締結校等との交流実績 ・留学生受入</p> <table border="1" data-bbox="1350 834 1861 1206"> <thead> <tr> <th>出身</th> <th>学部生</th> <th>大学院生 博士前期 ・修士</th> <th>大学院生 博士後期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>韓国</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>中国</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>台湾</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>インドネシア</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>ネパール</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>マレーシア</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>	出身	学部生	大学院生 博士前期 ・修士	大学院生 博士後期	韓国	0	2	0	中国	0	1	1	台湾	0	0	0	インドネシア	0	0	1	ネパール	0	0	0	マレーシア	1	0	0	合計	1	3	2
出身	学部生	大学院生 博士前期 ・修士	大学院生 博士後期																															
韓国	0	2	0																															
中国	0	1	1																															
台湾	0	0	0																															
インドネシア	0	0	1																															
ネパール	0	0	0																															
マレーシア	1	0	0																															
合計	1	3	2																															

中期計画	年度計画	実績状況																						
<p>[32] グローバル化に対応したコミュニケーション能力を向上させるため、英語による講義・演習の充実等、主に実践的な英語力の修得を目指す教育を推進する。</p> <p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> TOEIC平均点の1年次から2年次への伸び幅(点) <table border="1" data-bbox="371 517 792 620"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H28入学生の1年次→2年次)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伸び幅</td> <td>0.42</td> <td>5.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※第3期中期計画の期間において経過年度の平均値で評定(2年目以降にTOEIC上位得点者数等に関する指標を設定)</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語による講義・演習の実施状況 	項目	現状(H28入学生の1年次→2年次)	目標	伸び幅	0.42	5.0	<p>[32] 語学学習における満足度を高める方策やe-learning教材の評価と見直しについて検討する。また、令和3年度後期から導入する1年生対象のAdvanced classを円滑に運用する。</p> <p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> TOEIC平均点の1年次から2年次への伸び幅(点) TOEIC 550点以上取得学生の1年次から2年次への伸び幅(点) <table border="1" data-bbox="846 517 1261 595"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R3目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伸び幅</td> <td>3.0</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="846 660 1261 738"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R3目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伸び幅</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R3目標	伸び幅	3.0	項目	R3目標	伸び幅	0	<p>[32] 英語科目において、より習熟度の高い学生を対象とした「Advanced class」を開設し、更なる英語力の伸長に取り組んだ。 本学オリジナル教材「Express Yourself」について、オンライン授業の継続を見据えた改訂を進めた。 2年生対象のTOEIC L&R IPテストにおいては、平均点が1年次から49.33点上昇した他、1年次550点以上取得者の平均点も68.24点と大幅に上昇した。</p> <p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> TOEIC平均点の1年次から2年次への伸び幅(点) TOEIC 550点以上取得学生の1年次から2年次への伸び幅(点) <table border="1" data-bbox="1335 644 1749 722"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R3実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伸び幅</td> <td>49.33</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1335 788 1749 866"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R3実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伸び幅</td> <td>68.24</td> </tr> </tbody> </table> <p>[評価時の観点] より習熟度の高い学生を対象とした英語科目の開設やオリジナル教材の改訂などを進め、TOEIC L&R IPテストにおいて伸び幅が大幅に上昇するなど、英語力の伸長が図られた。</p>	項目	R3実績	伸び幅	49.33	項目	R3実績	伸び幅	68.24
項目	現状(H28入学生の1年次→2年次)	目標																						
伸び幅	0.42	5.0																						
項目	R3目標																							
伸び幅	3.0																							
項目	R3目標																							
伸び幅	0																							
項目	R3実績																							
伸び幅	49.33																							
項目	R3実績																							
伸び幅	68.24																							

第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置

1 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 機動的かつ効率的な運営体制の構築に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況
<p>[33]</p> <p>法人運営に関する共有意識を高めることにより、教職員のより一層の運営への参加を促すとともに、理事長(学長)のリーダーシップの下、内部統制システムの整備・強化により、業務の適正な執行を行う。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 法人運営に関する情報等の公表(及び共有意識の向上に寄与する取組の実施)状況 	<p>[33]</p> <p>理事長(学長)のリーダーシップの下、教職一体となった執行部による大学運営を引き続き推進していく。また、内部統制システムの維持強化のため、各業務におけるリスクの識別及び分析を行う。</p>	<p>[33]</p> <p>既にチェック体制が整備済みであった会計(経理)上のリスクに加え、法人の研究業務のリスクの洗い出し、内部監査(モニタリング)が実施でき、その結果は良好であった。</p> <p>令和3年度入試における得点集計の誤りに対し、直ちに学内に検証・再発防止ワーキンググループを設置し、発生経緯、原因を解明した上で、マニュアルの見直しや、チェックリストの作成等、再発防止に努めた。</p>
<p>[34]</p> <p>全学の運営組織体制を経営的な視点を持って不断に検証し、見直すことにより効率的かつ効果的に大学を運営する。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 運営組織体制の見直し状況 	<p>[34]</p> <p>組織体制等の見直しに伴う人件費等、収支に大きな影響を及ぼす案件については、経営的視点で検証し見直す。</p>	<p>[34]</p> <p>令和3年度補正予算、令和4年度当初予算の状況を勘案しながら、第3期中期計画期間における収支見通しを随時更新し、持続可能で安定的な財政運営が行えるよう財務状況の検証を行った。</p>
<p>[35]</p> <p>教職相互が大学運営上の目標や課題を共有し、教員と職員との協働性の向上を図りながら、課題解決のための教職協働の仕組みづくりと運用を進める。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学内外の研修への参加状況 	<p>[35]</p> <p>事務局職員として必要な基礎や専門的知識の習得のため、県や公大協が実施する研修への参加を促すとともに、その他学内で受講できる有益な研修の機会を提供することで、職員の能力及び資質の向上を図る。また、学内で実施するSD研修等への積極的な参加を促し、教職協働への意識の向上を図る。</p>	<p>[35]</p> <p>コロナ禍の影響を受けつつも、eラーニングセミナーの形式等も採り入れながら、現行の研修計画に基づき学内研修を計3回実施した(延べ236人受講)。また、岡山県主催のプレステージ研修及び公大協主催の研修はオンラインによる開催となったことから積極的な参加を促し、延べ39人が受講した。</p>

中期計画	年度計画	実績状況
		(参考指標) ・学内外の研修への参加状況 学内研修 第1回事務職員研修：15人 ハラスメント全体研修：209人 ハラスメント相談員向け研修：12人 公大協研修 公立大学に関する基礎研修：2人 公立大学の経営課題に関する研修会： (3回延べ)7人 公立大学会計セミナー：6人
<p>[36]</p> <p>法人職員に求められる能力開発のため、人材育成方針を策定するとともに、専門性・企画立案能力等の向上を目指した個人の業務に関する目標管理・評価手法の見直しを行う。</p> <p>また、法人の将来を担う優秀な人材確保のため、他大学等での実務経験や専門的な資格を有する者の採用など、長期的な運営体制の構築を念頭に置いた計画的な職員採用に取り組む。</p> <p>(参考指標) ・法人職員の人材育成方針の作成と推進状況</p>	<p>[36]</p> <p>法人職員の人材育成方針を踏まえ、岡山県立大学職員研修計画に基づく研修を実施する。また、事務局職員が積極的に大学運営に参画できるように、人件費抑制の観点も踏まえながら、各センター等の組織体制や事務局の組織体制の見直しを検討する。</p>	<p>[36]</p> <p>職員研修については、研修計画に基づき、コロナ禍の影響や状況を鑑み、最適で効果的な実施形態で実施した。</p> <p>人事評価制度の見直しとして、職員の標準職務遂行能力を定めるとともに、人事評価実施要綱を策定した。</p>
<p>[37]</p> <p>学内の情報伝達や情報共有を、ICT環境を活用して機動的かつ効率的に行うことにより、意思決定や業務改善の迅速化を図る。</p> <p>(参考指標) ・ICT環境の整備・活用状況(情報セキュリティ対策の整備状況を含む。)</p>	<p>[37]</p> <p>ネットワークシステムの更新に併せ、情報セキュリティのシステム強化を図るとともに、学内から提出された意見に基づき、情報発信・共有についてのルールの見直しを検討する。</p>	<p>[37]</p> <p>情報発信・共有ルールの見直しの前提となる学内ネットワークの更新事業の入札が前年度に続き再不調となったため、分割導入・更新を進め、部分的に更新を行った。</p> <p>[評価時の観点] 学内ネットワークの更新事業が完了できず、情報発信・共有ルールの見直しを行うことができなかった。</p>

第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置

1 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

(2) 地域に開かれた大学づくりの推進に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況
<p>[38]</p> <p>市町村や県内企業等との連携を深めるとともに、設立団体である県との間で、地域課題の共有及び大学の発展と課題解決に向けた連携方策や県の重点施策に対応した大学の活用方策等を協議・調整する連絡協議会の設置等、法人の業務運営と県行政との連携を確保する。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・COC+の活動状況 ・県との連携状況及び課題共有・検討体制の構築状況 	<p>[38]</p> <p>「吉備の杜」創造戦略プロジェクトを中心に、大学コンソーシアム岡山、市町村及び企業等との連携、課題解決等に引き続き取り組むとともに、県施策推進連絡会議を活用する等、県と本学の連携、課題共有を推進する。</p>	<p>[38]</p> <p>関係各所と連携により産業人材の養成に向けた教育プログラム「吉備の杜クリエイター課程」及び「吉備の杜プロデューサー課程」を開講し、社会人48人を含む362人の履修があった。</p> <p>県幹部に本学教員が研究や地域貢献活動を発表し意見交換を行うスタディミーティングでは、県からの新規要望（EBPM対応：科学的根拠に基づく政策立案）に関するテーマを設定して実施した。</p> <p>大学コンソーシアム岡山と協働し、真庭市、赤磐市から要請のあったイベントに講師の派遣を行った。</p>
<p>[39]</p> <p>UI(ユニバーシティ・アイデンティティ)戦略本部を設置し、本学の特色を生かした活動方針等を示したUI戦略を策定・推進することによりブランド力向上を図り、地(知)の拠点として地域に開かれた大学づくりを積極的に進める。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・UI戦略の策定・推進状況 	<p>[39]</p> <p>「吉備の杜」創造戦略プロジェクトを基盤として、UI戦略本部において、地域に開かれた大学をつくるため、広報等有効な方策を推進する。</p>	<p>[39]</p> <p>大学のUI戦略の一環として広報素材となるキャンパスソングとオリジナルクッキーを制作した。</p> <p>キャンパスソングは、本学学生を中心に作詞作曲を行い、完成した楽曲を学位授与式で披露した。</p> <p>クッキーは、地元企業と試作を重ね、学位授与式で卒業者全員に贈呈した。今後は商品化に向けて検討を進めることとした。</p> <p>[評価時の観点]</p> <p>学生や地元企業との協働でキャンパスソング及びクッキーが完成し、今後のUI戦略の推進に向けた取り組みが進んでいる。</p>

中期計画	年度計画	実績状況
<p>[40] 雇用形態の多様化など社会変化に対応するため、社会人の学び直しのためのリカレント教育を推進し、内容の充実を図る。</p>	<p>[40] リカレント教育の定義を、オンライン教育の可能性も含めて検討し直し、ニーズ調査の実現を目指す。その際、本学で実現可能なプログラムも具体的に提案できるように検討する。</p>	<p>[40] 副専攻「吉備の杜」の科目をオンラインで開講するとともに事業協働機関から履修者を募集し、県内16の企業・団体から48名（延71名）の学外履修者があった。</p>

第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置

2 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 自己収入の増加に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況														
<p>[再掲：26] 企業・団体等との連携研究により、産業界の発展に寄与する研究交流を充実するため、共同研究費等の獲得に向けた支援を行う。</p> <p>成果指標 ・地域の企業・団体等との共同研究費・受託研究費・教育研究奨励金の獲得状況(合計)(千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H24-H29 年度平均)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金額</td> <td>86,600</td> <td>100,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>※金額を到達基準とする</p>	項目	現状(H24-H29 年度平均)	目標	金額	86,600	100,000	<p>[再掲：26] アクティブ・ラボ、各種セミナー等への参加状況と共同研究等の獲得状況の分析結果から、産学連携に効果的な本学シーズの発信方法等を検討し、実施する。</p> <p>成果指標 ・地域の企業・団体等との共同研究費・受託研究費・教育研究奨励金の獲得状況(合計)(千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R3目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金額</td> <td>85,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>※金額を到達基準とする</p>	項目	R3目標	金額	85,000	<p>[再掲：26] アクティブ・ラボを70回実施し、産学官連携や共同研究の獲得に取り組んだ。 共同研究等は件数・金額ともに低迷したが、これまで産学官連携活動に積極的でなかった教員が参加するなど、取り組みの底上げを行った。</p> <p>成果指標 ・地域の企業・団体等との共同研究費・受託研究費・教育研究奨励金の獲得状況(合計)(千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R3実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金額</td> <td>44,932</td> </tr> </tbody> </table> <p>[評価時の観点] コロナ禍の影響で、企業からの共同研究費等の獲得が難しい状況であったことから、獲得件数、金額ともに低調であった。</p>	項目	R3実績	金額	44,932
項目	現状(H24-H29 年度平均)	目標														
金額	86,600	100,000														
項目	R3目標															
金額	85,000															
項目	R3実績															
金額	44,932															
<p>[41] 円滑かつ発展的な大学運営のために、外部研究資金等により自己収入増を図る。</p> <p>成果指標 ・科学研究費補助金獲得額(千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H24-H29 年度平均)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金額</td> <td>84,111</td> <td>85,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>※第3期中期計画の期間において、経過年度の平均値で評定</p>	項目	現状(H24-H29 年度平均)	目標	金額	84,111	85,000	<p>[41] 科学研究費の計画書作成勉強会、提出前検討会等の申請支援活動の検証・見直しを行い、獲得額の増加を図る。</p> <p>成果指標 ・科学研究費補助金獲得額(千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R3目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金額</td> <td>83,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>※第3期中期計画の期間において、経過年度の平均値で評定</p>	項目	R3目標	金額	83,000	<p>[41] 科学研究費への申請を支援するため、計画書作成勉強会・提出前検討会(外部業者による添削)を開催しつつ、その内容の検証・見直しを行い、申請数は68件と増加したが、採択数は16件、獲得額は88,270千円と昨年と同程度であった。</p> <p>成果指標 ・科学研究費補助金獲得額(千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R3実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金額</td> <td>88,270</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R3実績	金額	88,270
項目	現状(H24-H29 年度平均)	目標														
金額	84,111	85,000														
項目	R3目標															
金額	83,000															
項目	R3実績															
金額	88,270															

中期計画	年度計画	実績状況
		[評価時の観点] 科学研究費の獲得支援に取り組み、獲得額が88,270千円と目標を達成した。

- 第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置
 2 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置
 (2) 運営経費の見直しに関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況
<p>[42] 各種事業について、費用対効果を踏まえ、縮小・廃止を含めた事業見直しを実施するとともに、重点及び新規事業についても、実施後の効果検証を行い、効果的・効率的な実施に努める。</p> <p>(参考指標) ・事業の見直し状況(運営体制の改善等を含む。)及び重点・新規事業の効果検証の状況</p>	<p>[42] 各種事業について、必要性、実績、費用対効果等の検証を行い、縮小・廃止を含めた事業見直しを行う。</p>	<p>[42] 令和4年度当初予算編成にあたって、令和3年度までの進捗状況を踏まえ、事業一つ一つについて効果や効率性を見極めて、選択と集中による歳出の重点化を進め、教育の質の確保と地域貢献の推進を図りつつ、第3期中期計画期間における持続可能で安定的な財政運営が行える予算編成を行った。</p>

第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置

3 自己点検及び評価に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 評価の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況
<p>[43] 教育研究の質の充実を図るとともに、教育研究活動の透明性を高めるため、大学機関別認証評価を見据えた教育研究に関する内部質保証体制を確立し、適切かつ効率的な自己点検・評価を行う。</p> <p>(参考指標) ・大学機関別認証評価に係る自己評価書の作成・公表</p>	<p>[43] 令和5年度受審の次期認証評価に向け、学内の体制整備と学外からの情報収集を行うとともに、教学マネジメントの更なる確立を目指す。</p>	<p>[43] 3ポリシーの機関レベル、教育プログラムレベル、授業科目レベルでの自己点検・評価の手順を定めたアセスメントプランを公表し、ロードマップに従い各ポリシーの達成度評価・検証を進めた。 オンライン授業による教育成果の検証、その結果の公表を行い、オンデマンド教育については改善が確認できた。 認証評価受審に向け、内部質保証体制改編を進めるとともに、点検評価ポートフォリオ（自己点検評価書）の作成に着手した。 学部別外部評価を実施し、次年度以降の改善点を整理した。</p>
<p>[44] 現行及び平成33(2021)年度以降のディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)、カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)及びアドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)の実施状況に関する指標に対応する組織的な教育の自己点検・評価を着実に実施するため、IR(インスティテューショナル・リサーチ)活動の充実を図る。</p>	<p>[44] 統合された学部アンケート(入学時・在学時・卒業時)の仕組みを大学院にも適用し、さらに、教育満足度調査をも取り込む本学の総合IRを導入する。その上で、全学的な教学アセスメントの方針に従い、教育開発センターの組織改革とともに、3ポリシーと各種アンケートの連動接合を総合IRの観点の下で見直し、検討する。</p>	<p>[44] アセスメントプランのロードマップに従いIRデータの作成、公表を進めた。 入学時・卒業時アンケートはアドミッション・ポリシー及びディプロマ・ポリシーの達成度が評価できる形に見直した。また、カリキュラム・ポリシーが授業科目に適切に反映されているかマップにより点検を行うとともに、シラバスの到達目標と成績評価基準の書き方を全学的に修正した。</p>
<p>[45] 教員の教育・研究・社会貢献・管理運営の各業務に対する意欲・資質向上のため、教員の個人評価の運用に当たっては、評価後の効果を見極めながら、より効果的な評価制度となるよう指標等の不断の見直しを行う。</p>	<p>[45] 教員の個人評価制度について、評価方法の改善案を継続して検討し、教員活動の一層の活性化を図る。</p>	<p>[45] 教員個人評価について、改善の方向性を定めるとともに、ワーキンググループの設置に向け準備を進めるなど、具体的な検討を進めるための体制を整えた。</p>

中期計画	年度計画	実績状況
(参考指標) ・教員評価の結果公表		

- 第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置
- 3 自己点検及び評価に関する目標を達成するためとるべき措置
- (2) 情報公開の推進に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況
<p>[46]</p> <p>教育研究活動や業務運営全般に係る学内審議会・委員会の審議結果に加え、審議過程の情報を積極的に公開する。</p>	<p>[46]</p> <p>令和3年度の役員会、教育研究審議会、経営審議会、各委員会等に係る議事録を公表する。</p>	<p>[46]</p> <p>教育研究審議会については9回分、役員会及び経営審議会については4回分を、審議過程の情報も含め公表した。</p>
<p>[47]</p> <p>地(知)の拠点として地域社会に開かれた大学づくりのため策定するUI戦略に基づき、広報体制を強化するとともに、県のみならず各種広報媒体への掲載協力を得るなど、各種広報ツールを活用し、本学の魅力について、より一層周知を図る。</p>	<p>[47]</p> <p>入試・広報担当副学長を配置することで広報体制を強化するとともに、各種広報ツールの特性を生かした戦略的な広報活動を推進する。また、社会情勢やターゲットのニーズを意識し、特にデジタルツールによる広報を強化する。</p>	<p>[47]</p> <p>デジタルツールによる広報の強化に向けて、大学ホームページのリニューアルを行い、上層ページのデザインと、導線のわかりやすさを中心に改善を行ったが、公開に向けた準備・確認の時間を確保するため、稼働は令和4年6月に延期となった。</p> <p>ホームページ、SNS、新聞・雑誌掲載による情報発信のほか、コロナ禍によるイベントのオンライン化も活用してウェブでの広報を積極的に行った。ホームページの年間訪問数は100万件余りと昨年度並みの実績となった。</p>

- 第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置
 4 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置
 (1) 施設及び設備の適切な維持管理に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況
<p>[48] 施設の老朽化等の安全管理に関する課題解決のため、必要な改修・修繕を実施するとともに、学生のみならず教職員が安心して学び働ける快適な環境を確保するため、教室・執務室をはじめ、空調や衛生設備の充実、運用時間等の見直しを図る。</p>	<p>[48] 平成30年度に定めた中期修繕計画（令和元年度～令和9年度）に基づき、高圧受変電設備整備を実施するとともに適宜、計画の見直しを行う。</p>	<p>[48] 岡山県から大規模修繕補助金を受けて高圧受変電設備等、新型コロナ関連の補助金を受けて空調設備の更新を行った。 また、令和4年度の大規模修繕の補助金3件が内定した。</p>

第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置

4 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置

(2) 安全・安心な教育研究環境の確保に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況
<p>[49] 学内全体での危機管理・安全衛生の強化並びに人権擁護及び法令遵守の意識の共有を図り、研究者倫理遵守や各種ハラスメントなどの人権侵害防止等に努めるとともに、不測の事態に適切に対応できるよう責任体制の明確化と想定訓練の実施などに組織的に取り組む。</p> <p>成果指標 ・危機管理対応マニュアルの作成・試行運用の状況</p>	<p>[49] 危機管理ガイドラインに沿った危機管理対応マニュアルを作成し、試行する。特に、ハラスメント防止対策については、各部局が主体となり、迅速かつ適切に対応して問題解決が図られる体制づくりを検討する。</p> <p>成果指標 ・危機管理対応マニュアルの作成・試行運用の状況</p>	<p>[49] 新型コロナウイルス対策や学生の安全に対し、全学として取り組み、「新型コロナウイルス感染症対応マニュアル」の周知、活用、改正を行った。また、各学部において安全の手引きを作成することとした。</p> <p>R3年度入試における得点集計の誤りに対し、直ちに学内に検証・再発防止ワーキンググループを設置し、発生経緯、原因を解明した上で、入試業務マニュアルの見直しや、チェックリストの作成等、再発防止に努めた。</p> <p>成果指標 ・危機管理対応マニュアルの作成・試行運用の状況 新型コロナウイルス感染症対応マニュアルの周知、活用、改正 各学部安全の手引きの作成準備</p>

中期計画	年度計画	実績状況
<p>[50] 災害や事故等に適切かつ迅速に対応することができるよう、学生や教職員に対する教育や研修・訓練を推進するとともに、安全管理及び災害等を想定した防災体制の充実を図る。</p> <p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害対応マニュアルの作成並びに学生及び教職員への周知 <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災に関する研修・訓練の実施状況 	<p>[50] 危機管理ガイドラインに対応した災害対応マニュアルを作成し、学生や教職員への周知を図るとともに見直しを行う。</p> <p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害対応マニュアルの作成 	<p>[50] 自然災害(地震、風水害、火災)対応マニュアル素案の成案化を進めるとともに、大地震及びその後の火災を想定した防火・防災訓練を実施した。</p> <p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害対応マニュアルの作成 自然災害(地震、風水害、火災)対応マニュアル素案の成案化 <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災に関する研修・訓練の実施状況 大地震及びその後の火災を想定した防火・防災訓練：1回

第4 財務情報（主要データの推移）

1 貸借対照表

（単位：千円）

区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
資産	11,273,391	10,864,817	10,269,885	10,215,719	10,277,266	10,003,838
固定資産	10,446,845	10,082,990	9,562,485	9,255,359	9,129,581	8,715,158
流動資産	826,546	781,828	707,401	960,360	1,147,685	1,288,680
負債	2,552,772	2,631,716	2,384,676	2,187,815	2,367,272	2,357,462
固定負債	1,950,732	1,968,173	1,928,778	1,862,336	1,816,977	1,811,759
流動負債	602,040	663,542	455,898	325,478	550,295	545,702
純資産	8,720,619	8,233,102	7,885,209	8,027,905	7,909,994	7,646,376
資本金	12,091,633	12,091,633	12,091,633	12,091,633	12,091,633	12,091,633
資本剰余金	△ 4,123,384	△ 4,309,983	△ 4,587,321	△ 4,717,379	△ 4,891,442	△ 5,194,155
うち損益外減価償却累計額（△）	△ 4,386,163	△ 4,581,442	△ 4,778,401	△ 4,976,903	△ 5,179,272	△ 5,382,812
うち損益外減損損失累計額（△）	—	—	△ 150,371	△ 150,371	△ 150,371	△ 273,398
利益剰余金	752,370	451,452	380,897	653,651	709,802	748,898
前中期目標期間繰越積立金	739,588	439,936	161,316	380,897	380,897	380,897
教育研究及び業務運営充実積立金	1,558	—	—	—	272,754	328,905
積立金	—	—	—	—	—	—
当期末処分利益	11,223	11,516	219,582	272,754	56,152	39,095
負債純資産合計	11,273,391	10,864,817	10,269,885	10,215,719	10,277,266	10,003,838

注 金額は千円未満を四捨五入しています。そのため、表中で合計が一致しない場合があります。

2 損益計算書

(単位：千円)

区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
経常費用	3,553,458	3,621,888	3,591,366	3,394,426	3,527,727	3,456,170
業務費	3,222,142	3,300,506	3,272,837	3,038,210	3,165,701	3,102,811
教育経費	639,363	622,609	599,298	575,773	624,627	596,275
研究経費	231,299	204,161	194,298	169,005	158,345	172,127
教育研究支援経費	44,754	38,815	37,195	48,280	36,076	36,283
受託研究費	46,826	35,580	37,937	33,228	30,535	11,181
共同研究費	19,264	18,691	14,725	18,722	16,266	22,039
受託事業費	1,518	1,105	1,705	10,807	10,898	10,107
役員人件費	32,157	40,691	85,170	32,796	32,834	31,043
教員人件費	1,743,238	1,872,284	1,824,971	1,683,274	1,782,314	1,718,954
職員人件費	463,724	466,568	477,538	466,325	473,806	504,801
一般管理費	330,673	321,032	318,439	356,184	362,005	353,310
その他	643	349	91	33	21	48
経常収益	3,315,734	3,320,970	3,366,237	3,667,180	3,587,241	3,495,265
運営費交付金収益	1,858,643	1,932,943	1,972,405	2,255,204	2,087,476	2,045,870
授業料収入	966,077	957,416	942,764	958,000	946,240	934,536
入学金収入	114,981	108,570	117,077	105,365	107,968	110,741
検定料収入	44,152	50,527	50,570	48,555	50,925	48,079
受託研究費収入	51,387	38,750	44,135	40,947	36,491	13,623
(国又は地方公共団体)	8,364	2,080	4,140	991	2,387	2,220
(国又は地方公共団体以外)	43,023	36,670	39,995	39,956	34,104	11,402
共同研究費収入	24,162	23,206	18,889	20,209	16,997	14,922
(国又は地方公共団体)	560	391	700	1,070	798	818
(国又は地方公共団体以外)	23,602	22,815	18,189	19,139	16,199	14,103
受託事業等収入	550	320	560	10,731	11,013	10,424
(国又は地方公共団体)	550	320	260	10,731	11,013	9,888
(国又は地方公共団体以外)	-	-	300	-	-	535
補助金等収益	47,548	49,049	39,590	29,720	129,932	116,373
寄附金収益	24,939	23,984	25,498	23,648	24,942	26,595
施設費収益	35,717	500	1,968	35,981	49,878	46,461
資産見返負債戻入	95,482	85,791	86,517	92,358	77,688	81,322
その他	52,095	49,913	66,263	46,462	47,691	46,319
経常利益 (又は経常損失 (△))	△ 237,724	△ 300,918	△ 225,129	272,754	59,514	39,095
臨時損失	576	-	62,176	0	3,363	356
臨時利益	576	-	216,750	-	-	356
当期純利益 (又は当期純損失 (△))	△ 237,724	△ 300,918	△ 70,554	272,754	56,152	39,095
目的積立金取崩額	248,947	312,434	290,136	-	-	-
当期総利益	11,223	11,516	219,582	272,754	56,152	39,095

注 金額は千円未満を四捨五入しています。そのため、表中で合計が一致しない場合があります。

3 キャッシュフロー計算書

(単位：千円)

区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
業務活動によるキャッシュ・フロー	△ 159,537	△ 89,584	△ 199,492	115,275	245,114	48,325
投資活動によるキャッシュ・フロー	83,621	57,852	130,854	174,472	16,597	48,399
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 17,766	△ 18,105	△ 11,381	△ 1,017	△ 1,017	△ 1,017
資金増加額（又は資金減少額（△））	△ 93,682	△ 49,837	△ 80,019	288,730	260,693	95,706
資金期首残高	634,938	541,256	491,419	411,400	700,130	960,823
資金期末残高	541,256	491,419	411,400	700,130	960,823	1,056,529

注 金額は千円未満を四捨五入しています。そのため、表中で合計が一致しない場合があります。

4 行政サービス実施コスト計算書

(単位：千円)

区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
行政サービス実施コスト	2,555,060	2,560,263	2,627,149	2,383,082	2,455,442	2,598,001
業務費用	2,261,664	2,353,941	2,371,515	2,147,850	2,288,777	2,255,674
損益計算書上の費用	3,554,034	3,621,888	3,653,542	3,394,426	3,531,090	3,456,526
自己収入等	△ 1,292,370	△ 1,267,947	△ 1,282,027	△ 1,246,576	△ 1,242,313	△ 1,200,852
損益外減価償却相当額	192,256	195,279	196,959	198,502	202,369	203,540
損益外減損損失相当額	-	-	150,371	-	-	123,027
引当外賞与増加見積額	4,685	5,988	△ 896	2,441	△ 2,677	△ 4,724
引当外退職給付増加見積額	91,233	1,511	△ 90,800	33,917	△ 41,772	5,681
機会費用	5,222	3,544	-	372	8,745	14,803

注 金額は千円未満を四捨五入しています。そのため、表中で合計が一致しない場合があります。

第5 令和3年度財務諸表の要約

(1) 貸借対照表関係

(資産合計)

令和3年度末現在の資産合計は、前年度比273,428千円(2.7%)減の10,003,838千円となっている。

主な減少要因としては、総社宿舎及び西辛川宿舎の減損を認識したことによる減損損失123,027千円を計上したこと、未収入金が前年度比51,964千円(67.1%)減の25,504千円となったことが挙げられる。

(負債合計)

令和3年度末現在の負債合計は、前年度比9,810千円(0.4%)減の2,357,462千円となっている。

主な減少要因としては、未払金が前年度比11,415千円(2.8%)減の398,344千円となったことが挙げられる。

(純資産合計)

令和3年度末現在の純資産合計は、前年度比263,618千円(3.3%)減の7,646,376千円となっている。

主な減少要因としては、県出資財産の減価償却累計額及び減損損失累計額の増加により資本剰余金が前年度比302,713千円(6.2%)減の△5,194,155千円になったことが挙げられる。

(2) 損益計算書関係

(経常費用)

令和3年度の経常費用は、前年度比71,557千円(2.0%)減の3,456,170千円となっている。

主な減少要因としては、授業料減免額の減少により奨学費が減少したこと等により教育経費が前年度比28,352千円(4.5%)減の596,275千円となったこと、退職手当支給額の減少等により教員人件費が前年度比63,360千円(3.6%)減の1,718,954千円となったことが挙げられる。

(経常収益)

令和3年度の経常収益は、前年度比91,976千円(2.6%)減の3,495,265千円となっている。

主な減少要因としては、令和2年度給与改定に伴う運営費交付金の減少及び固定資産取得に伴う資産見返運営費交付金等への振替額の増加などにより運営費交付金収益が前年度比41,606千円(2.0%)減の2,045,870千円となったこと、受託研究収益が前年度比22,868千円(62.7%)減の13,623千円となったことが挙げられる。

(当期総利益)

上記経常損益の状況から、令和3年度の経常利益は、前年度比20,419千円(34.3%)減の39,095千円となっている。当期総利益は、前年度比17,057千円(30.4%)減の39,095千円となっている。

なお、目的積立金の取崩しはなかった。

(3) キャッシュ・フロー計算書関係

(業務活動によるキャッシュ・フロー)

令和3年度の業務活動によるキャッシュ・フローは、前年度比196,789千円(80.3%)減の48,325千円となっている。

主な減少要因としては、原材料、商品又はサービスの購入による支出が前年度比57,589千円(9.1%)増の△693,530千円となったこと、人件費支出が前年度比155,063千円(7.2%)増の△2,313,684千円となったことが挙げられる。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

令和3年度の投資活動によるキャッシュ・フローは、前年度比31,802千円(191.6%)増の48,399千円となっている。

主な増加要因としては、有形固定資産の取得による支出が前年度比24,290千円(32.2%)減の△51,104千円となったこと、施設費による収入が前年度比13,100千円(14.2%)増の105,093千円となったことが挙げられる。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

令和3年度の財務活動によるキャッシュ・フローは、前年度と変わらず△1,017千円となっている。

(資金期末残高)

資金期末残高は、1,056,529千円となっており、昨年度末残高より95,706千円(10.0%)増加している。

(4) 行政サービス実施コスト計算書

(行政サービス実施コスト)

令和3年度の行政サービス実施コストは、前年度比142,559千円(5.8%)増の2,598,001千円となっている。

主な増加要因としては、総社宿舎及び西辛川宿舎の減損を認識したことによる損益外減損損失相当額として123,027千円を計上したことが挙げられる。

第6 予算、収支計画及び資金計画

1 予算

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差 額 (決算-予算)
収入			
運営費交付金	2, 1 1 3	2, 1 1 3	0
補助金	2 0 0	1 9 0	△ 1 0
自己収入	1, 0 4 9	1, 0 5 8	9
授業料及び入学検定料収入	1, 0 0 5	1, 0 1 3	8
雑収入	4 4	4 5	1
受託研究等収入及び寄附金収入	1 0 9	5 8	△ 5 1
目的積立金取崩	6 5	-	△ 6 5
計	3, 5 3 6	3, 4 1 9	△ 1 1 7
支出			
教育研究経費	8 2 9	7 3 0	△ 9 9
人件費	2, 2 0 0	2, 1 5 7	△ 4 3
一般管理費	3 5 7	3 4 7	△ 1 0
受託研究等経費及び寄附金事業費等	1 0 9	6 0	△ 4 9
施設費	4 1	7 0	2 9
計	3, 5 3 6	3, 3 6 4	△ 1 7 2

2 収支計画

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差 額 (決算-予算)
費用の部	3, 6 2 4	3, 4 5 6	△ 1 6 8
経常費用	3, 6 2 4	3, 4 5 6	△ 1 6 8
業務費	3, 2 1 1	3, 0 4 0	△ 1 7 1
教育研究経費	8 7 0	7 5 2	△ 1 1 8
受託研究等経費	8 2	3 3	△ 4 9
役員人件費	3 3	3 1	△ 2
教員人件費	1, 7 2 2	1, 7 1 9	△ 3
職員人件費	5 0 4	5 0 5	1
一般管理費	3 3 4	3 2 8	△ 6
財務費用	-	0	0
雑損	-	0	0
減価償却費	7 9	8 8	9
収入の部	3, 5 5 9	3, 4 9 5	△ 6 4
経常収益	3, 5 5 9	3, 4 9 5	△ 6 4
運営費交付金収益	2, 0 6 9	2, 0 4 6	△ 2 3
授業料収益	9 3 9	9 3 4	△ 5
入学金収益	1 0 3	1 1 1	8
検定料収益	5 0	4 8	△ 2
受託研究等収益	1 0 9	6 6	△ 4 3
補助金収益	1 6 7	1 6 3	△ 4
財務収益	-	0	0
雑益	4 4	4 6	2
資産見返負債戻入	7 8	8 1	3
資産見返運営費交付金等戻入	5 1	4 6	△ 5
資産見返寄附金戻入	1 2	2 0	8
資産見返補助金戻入	1	1	0
資産見返物品受贈額戻入	1 4	1 4	0
経常利益	△ 6 5	3 9	1 0 4
臨時損失	-	0	0
臨時利益	-	0	0
純利益	△ 6 5	3 9	1 0 4
目的積立金取崩額	6 5	-	△ 6 5
総利益	-	3 9	3 9

3 資金計画

(単位:百万円)

区 分	予算額	決算額	差 額 (決算-予算)
資金支出	4, 2 4 4	4, 4 1 9	1 7 5
業務活動による支出	3, 4 5 7	3, 3 0 5	△ 1 5 2
投資活動による支出	7 8	5 7	△ 2 1
財務活動による支出	1	1	0
翌年度への繰越金	7 0 8	1, 0 5 6	3 4 8
資金収入	4, 2 4 4	4, 4 1 9	1 7 5
業務活動による収入	3, 4 3 0	3, 3 5 3	△ 7 7
運営費交付金による収入	2, 1 1 3	2, 1 1 3	0
授業料及び入学検定料による収入	1, 0 0 5	1, 0 0 2	△ 3
受託研究等収入	1 0 9	6 1	△ 4 8
補助金収入	1 5 9	1 3 2	△ 2 7
その他の収入	4 4	4 5	1
投資活動による収入	4 1	1 0 5	6 4
財務活動による収入	—	—	—
前年度からの繰越金	7 7 3	9 6 1	1 8 8

第7 短期借入金の限度額

中期計画	年度計画	実績状況
短期借入金の限度額 限度額 3億円	短期借入金の限度額 限度額 3億円	該当なし

第8 剰余金の使途

中期計画	年度計画	実績状況
決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。	決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。	令和2年度決算剰余金56,152千円を教育研究の向上及び組織運営の改善積立基金に積み立てた。

第9 重要な財産の譲渡等に関する計画

中期計画	年度計画	実績状況
なし	なし	なし

第10 その他規則で定める事項

中期計画	年度計画	実績状況																								
<p>1 施設及び設備に関する計画 個別施設計画に基づき、第3期中期計画期間中に行う。</p> <p>2 中期目標の期間を超える債務負担なし</p> <p>3 地方独立行政法人法第40条第4項の規定により業務の財源に充てることができる積立金の使途 教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。</p> <p>4 その他法人の業務運営に関し必要な事項 なし</p>	<p>1 施設及び設備に関する計画 個別施設計画に基づき、第3期中期計画期間中に行う。</p> <p>2 中期目標の期間を超える債務負担 ○学内ネットワークシステム更新事業 ・事業総額：382 百万円 ・事業期間：令和2年度～令和8年度（7年間） (単位：百万円)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> <th>中期目標 期間小計</th> <th>次期以降 事業費</th> <th>総事 業費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>債務 負担額</td> <td>0</td> <td>38</td> <td>76</td> <td>76</td> <td>76</td> <td>267</td> <td>115</td> <td>382</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 金額の端数処理は、年度毎に四捨五入を行っているため、中期目標期間小計と一致しない。</p> <p>3 地方独立行政法人法第40条第4項の規定により業務の財源に充てることができる積立金の使途 教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。</p> <p>4 その他法人の業務運営に関し必要な事項 なし</p>	年度	R2	R3	R4	R5	R6	中期目標 期間小計	次期以降 事業費	総事 業費	債務 負担額	0	38	76	76	76	267	115	382	<p>1 大規模修繕を2件実施した。 ・高圧受変電設備更新 ・空調設備更新</p> <p>2 学内ネットワークシステム更新事業 (単位：百万円)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>支出額</td> <td>0</td> <td>35</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 該当なし</p> <p>4 該当なし</p>	年度	R2	R3	支出額	0	35
年度	R2	R3	R4	R5	R6	中期目標 期間小計	次期以降 事業費	総事 業費																		
債務 負担額	0	38	76	76	76	267	115	382																		
年度	R2	R3																								
支出額	0	35																								